BUFFALO

外付けUltra SCSIハードディスク

DSCシリーズ
ユーザーズマニュアル

Q&A　インターネットで弊社製品のQ&A情報を入手できます。
http://buffalo.melcoinc.co.jp/qa/index.html

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 に続く説明文は、製品を取り扱う際に特に注意していただきたい事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

次の動作マーク .... ↘次へ に続くページは、次にどこのページへ進めばよいかを記しています。

文中の用語表記

- Windows搭載パソコンの場合、本書では次のようなドライブ構成を想定して説明しています。
  A:フロッピーディスクドライブ　C:ハードディスクドライブ　E:CD-ROMドライブ
- Microsoft社Windows 98 Second Editionを「Windows98SE」と表記しています。
- マッハSCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)を「SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)」と表記しています。
- 文中［　］で囲んだ名称は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。
- 文中<>で囲んだ名称は、キーボード上のキーを表しています。（例）<Enter>キー
  ※PC-9821シリーズでは、<Enter>キーが<RETURN>と印刷されている機種があります。
- 本書に記載されているハードディスク容量は、1GB＝1000^3byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB＝1024^3byteで計算されているため、表示される容量が異なります。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項を記載しました。
正しく使用するために、必ずお読みになり内容をよく理解された上で、お使いください。なお、本書には弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだパソコンシステム運用全般に関する注意事項も記載されています。
パソコンの故障／トラブルや、データの消失・破損または、取り扱いを誤ったために生じた本製品の故障／トラブルは、弊社の保証対象には含まれません。あらかじめご了承ください。

■使用している表示と絵記号の意味

警告表示の意味

⚠ 警告	絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

絵記号の意味

△	△は、警告・注意を促す記号です。△の近くに具体的な警告内容（例：⚡ 感電注意)が描かれています。
⃠	○に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。 ○の中や近くに、具体的な禁止事項が描かれています。（例：分解禁止）
●	●は、しなければならない行為を示す記号です。 ●の近くに、具体的な指示内容（例：プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告

電源プラグを抜く

本製品に液体をかけたり、異物を内部に入れたりしないでください。液体や異物が内部に入ったら、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。
そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。
弊社サポートセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

水場での使用禁止

風呂場など、水分や湿気が多い場所では、本製品を使用しないでください。
火災になったり、感電、故障する恐れがあります。

分解禁止

本製品の分解・改造・修理を自分でしないでください。
火災・感電・故障の恐れがあります。また、本製品のシールやカバーを取り外した場合、修理をお断りすることがあります。

電源プラグを抜く

煙が出たり変な臭いや音がしたら、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、ショートして火災になったり、感電する恐れがあります。弊社サポートセンターまたは、お買い求めの販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。与えてしまった場合は、すぐに電源スイッチをOFFにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。

本製品は精密機器です。衝撃を与えないように慎重に取り扱ってください。衝撃は本製品の故障の原因となります。

電源プラグを抜く

本製品の取り付け、取り外しをするときは、パソコンおよび周辺機器の電源スイッチをOFFにし、コンセントから電源プラグを抜いてください。

電源プラグがコンセントに接続されたまま、取り付け、取り外しを行うと、感電および故障の原因となります。

禁 止

AC100V(50/60Hz)以外のコンセントには、絶対に電源プラグを差し込まないでください。

海外などで異なる電圧で使用するとショートしたり、発煙や火災の恐れがあります。

禁 止

濡れた手で本製品に触れないでください。

パソコンおよび周辺機器の電源プラグがコンセントに接続されているときは、感電の原因となります。また、コンセントに接続されていなくても故障の原因となります。

禁 止

電源コードを傷つけたり、加工、加熱、修復しないでください。火災になったり、感電する恐れがあり、本製品の故障の原因ともなります。

- 設置時に、電源コードを壁やラック（棚）などの間にはさみ込んだりしなでください。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしないでください。
- 熱器具を近付けたり、加熱しないでください。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- 極端に折り曲げないでください。
- 電源コードを接続したまま、機器を移動しないでください。

万一、電源コードが傷んだら、弊社サポートセンターまたは、お買い上げの販売店にご相談ください。

強 制

小さなお子様が電気製品を使用する場合には、本製品の取り扱い方法を理解した大人の監視、指導のもとで行うようにしてください。

強 制

電気製品の内部やケーブル、コネクタ類に小さなお子様の手が届かないように機器を配置してください。

さわってけがをする恐れがあります。

強 制

本製品を取り付け、使用する際は、必ずパソコンメーカおよび周辺機器メーカが提示する警告や注意指示に従ってください。

強制

ACアダプタ、SCSIケーブルは必ず本製品付属のもの、または同等のもの（弊社製接続キット）をご使用ください。

本製品付属以外のACアダプタ、SCSIケーブルをご使用になると、電圧や端子の極性が異なることがあるため、発煙、発火の恐れがあります。本製品の故障の原因ともなります。

強制

電源プラグは、コンセントに完全に差し込んでください。
差し込みが不完全なまま使用すると、ショートや発熱の原因となり、火災や感電の恐れがあります。

⚠ 注意

禁止

ハードディスク、MO、フロッピーディスクドライブなどのデータの格納用機器へのアクセス中は、パソコンや機器の電源をOFFにしたり、リセットしないでください。

データを消失、破損する恐れがあります。データが消失、破損したことによる損害については、弊社はいかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

強制

各接続コネクタのチリやほこり等は、取りのぞいてください。
各接続コネクタには手を触れないでください。

故障の原因となります。

禁止

本製品の上に物を置かないでください。

傷がついたり、故障の原因となります。

禁止

通風口をふさいだり、他の機器と密着させないでください。

故障の原因となります。

禁止

アクセスランプが点灯している間は、電源スイッチをOFFにしたり、システムをリセットしないでください。

禁止

シンナーやベンジン等の有機溶剤で、本製品を拭かないでください。

本製品のよごれは、乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどい場合は、きれいな布に中性洗剤を含ませ、かたくしぼってから拭き取ってください。

禁止

パソコンおよび周辺機器の電源がONの状態で、SCSIケーブルの抜き差しをしないでください。

本製品および周辺機器の故障の原因となります。

強制

静電気による破損を防ぐため、本製品に触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。

人体などからの静電気は、本製品を破損、またはデータを消失、破損させる恐れがあります。

強制

パソコンおよび周辺機器の取り扱いは、各マニュアルをよく読んで、各メーカの定める手順に従ってください。

アースを接続

配線作業の前にアースを接続してください。

配線作業をする前に、本製品および本製品に接続するすべての機器（パソコンやSCSI機器等）にアースを接続してください。

強 制

本製品の電源スイッチをONにするときは、パソコンより先に行ってください。電源スイッチのON/OFFは、少なくとも数秒の間隔をあけて行ってください。

本製品の故障、データの消失、破損の恐れがあります。

強 制

ハードディスク内のデータは、必ず他のメディア（フロッピーディスク、MOディスク等）にバックアップしてください。

とくに、修復、再現できない重要なデータは、オリジナルの更新前、更新後と、常に二重のバックアップを作成されることをおすすめします。次のような場合に、データが消失、破損する恐れがあります。

・誤った使い方をしたとき
・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
・故障、修理などのとき
・パソコンの電源スイッチをOFFにした直後に、すぐに電源スイッチをONにしたとき
・天災による被害を受けたとき

上記の場合に限らずバックアップの作成を怠ったために、データを消失、破損した場合、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

強 制

本製品の取り付け、取り外しや、ソフトウェアをインストールするときなど、お使いのパソコン環境を少しでも変更するときは、変更前に必ずパソコン内（ハードディスク等）のデータをすべてMOディスク、フロッピーディスク等にバックアップしてください。

誤った使い方をしたり、故障などが発生してデータが消失、破損したときなど、
バックアップがあれば被害を最小限に抑えることができます。
バックアップの作成を怠ったために、データを消失、破損した場合、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

禁 止

次の場所には設置しないでください。感電、火災の原因となったり、製品やパソコンに悪影響を及ぼすことがあります。

・強い磁界や静電気が発生するところ
・直射日光が当たるところ
・ほこりの多いところ
・温度、湿度がパソコンのマニュアルが定めた使用環境を超える、または結露するところ
・振動が発生するところ　→けが、故障、破損の原因となります。
・平らでないところ　→転倒したり、落下して、けがや故障の原因となります。
・火気の周辺、または熱気のこもるところ
　→故障や変形の原因となります。
・漏電または漏水の危険があるところ
　→故障や感電の原因となります。

強 制

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。

条例の内容については、各地方自治体にお問い合わせください。

目 次

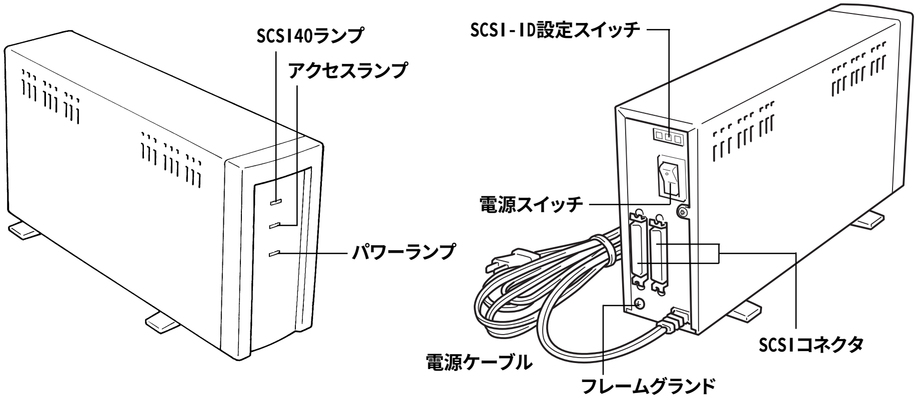
1 はじめに

本製品を使用する前に知っておいていただきたいことを説明しています。

パッケージの内容

パッケージには、次の物が梱包されています。万一、不足している物がありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。なお、本体形状はイラストと異なることがあります。

●DSC（本体）………………………………………………………… 1台



ランプの名称	はたらき
SCSI40ランプ	SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)転送時に点灯(赤)
アクセスランプ	データ転送時に点灯(赤)
パワーランプ	電源ON時に点灯(緑)

●SCSIケーブル（40cm）
（D-subハーフピッチ50ピン凸）………………………………………… 1本

●DSCシリーズ ドライバディスク ・ DSCシリーズ ユーティリティディスク
（フロッピーディスク）………………………………………………… 1枚

※ SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)対応ドライバとフォーマットユーティリティ「Disk Formatter」が収録されています。

※ Apple社製Macintoshでは使用できません。

●Disk Formatterソフトウェアマニュアル ………………………………… 1冊

●ユーザーズマニュアル（本書）………………………………………… 1冊

●ユーザー登録はがき、保証書 ………………………………………… 1枚

※ ユーザー登録はがきは保証書を切り離した後、必要事項をご記入の上、必ず弊社までご返送ください。また、切り離した保証書は、大切に保管してください。

※ 別紙で追加情報が同梱されているときは、必ず参照してください。

作業の進めかたを確認しよう

本製品のSCSI-IDを設定する【P11】

▼

本製品をパソコンに接続する【P13】

▼

周辺機器（本製品を含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにする

▼

本製品をフォーマットする

・DOS/V機、PC98-NXシリーズ【P15】
・PC-9800シリーズ【P38】
・Macintosh【以下の「メモ」を参照】

メモ

・本製品をSCSI標準搭載のMacintoshに接続するときは、弊社製接続キットDCK-ADAP（Macintosh用SCSIケーブル、ターミネータ、フォーマッタ）を別途ご購入ください。また、本製品のフォーマットには、DCK-ADAPに付属のフォーマッタを使用してください。

・本製品をSCSI非搭載のMacintoshで使用する場合、弊社製SCSIインターフェースボードIFC-USLPとフォーマッタを別途ご購入ください。

PC98-NXシリーズで使用する場合

● CyberTrio-NXがインストールされているパソコン（※）では、CyberTrio-NXをアドバンストモード以外のモードで使用していると、本製品の設定や接続状態の確認ができないことがあります。本製品を接続する前に必ずアドバンストモードに変更してください。

※ CyberTrio-NXがインストールされていると、タスクバーにインジケータが表示されます。

メモ **CyberTrio-NXのモードの確認方法**
タスクバーに表示されているCyberTrio-NXのインジケータの色で確認できます。

赤	アドバンストモード	設定を変更する必要はありません。
黄	ベーシックモード	アドバンストモードに設定を変更してください。
緑	キッズモード／カスタムモード	アドバンストモードに設定を変更してください。

メモ **CyberTrio-NXのモードの変更方法**
再起動後もアドバンストモードになるように設定を変更します。

1 [ｽﾀｰﾄ]－[ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ]－[CyberTrio-NX]－[Go To ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾓｰﾄﾞ]を選択します。アドバンストモードに切り替わります。

2 [ｽﾀｰﾄ]－[ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ]－[CyberTrio-NX]－[CyberTrio-NX ｾｯﾄｱｯﾌﾟ]を選択します。

3 [CyberTrio-NXのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ダイアログボックスが表示されます。[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾓｰﾄﾞ]を選択して[OK]をクリックします。
詳しい手順はパソコン本体のマニュアルを参照してください。

以上でアドバンストモードに設定されました。
本製品の接続状態を確認した後は、アドバンストモード以外のモードも使用できます。任意のモードに変更してください。

● PC98-NXシリーズのスリープボタンは使用しないでください。
スリープボタンでのサスペンド／レジューム機能（消費電力を減らすための機能）を使用すると、システムが正常に動作しなくなることがあります。

※ サスペンド／レジューム機能によってシステムが正常に動作しなくなったときは、Windowsを再起動してください。

CyberTrio-NX

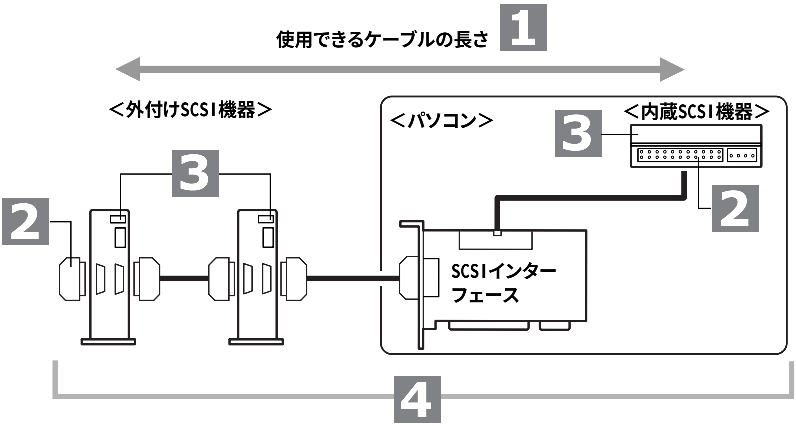
パソコンを使う人の利用するレベルに合わせて、Windowsの操作範囲やアクセスできるフォルダを限定するためのユーティリティです。詳しくはパソコン本体のマニュアルを参照してください。

2 接続しよう

本製品をパソコンに接続する手順を説明しています。

接続時の注意

本製品やSCSI機器を接続する時の注意事項を、次の図の 1 ～ 4 で説明しています。必ずお読みください。



1 SCSI ケーブルとコネクタ

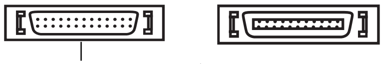
● 本製品を接続するSCSIインターフェースがUltra SCSI対応かSCSI-2対応かによって、接続できるSCSI機器の台数と、接続に使用できるSCSIケーブルの長さの合計が異なります。

SCSIインターフェースの種類	接続台数	ケーブルの長さの合計(*1)
Ultra SCSIインターフェース(*2) (SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)を含む)	1～3台	3m以下
	4～7台	1.5m以下
SCSI-2インターフェース	7台まで	6m以下

*1　ケーブルの長さの合計には、SCSI機器の内部に配線されている部分（10～20cm程度）も含まれます。

*2　Ultra SCSI(SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)を含む)対応のSCSI機器を使用するときは、SCSI機器の台数が多くなるほどSCSIケーブルの長さの合計を短くする必要があります。ケーブルの長さが1.5mを超えるときは、インターフェースの転送速度をSCSI-2相当（理論値10MB/sec）に変更すれば、ケーブルを6mまで使用できます。転送速度の変更方法は、インターフェースのマニュアルを参照してください。

● SCSIケーブルとSCSI機器のコネクタ形状が合っているか確認してください。
付属のSCSIケーブルは両端ともD-subハーフピッチ50ピンです。パソコンやSCSIインターフェースのコネクタ形状によっては、別売の弊社製接続キットと組み合わせて接続する必要があります。



本製品および付属のSCSIケーブルのコネクタ形状は、 こちらです。

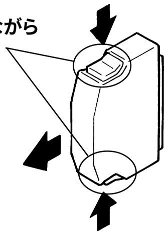
- 接続に使用するSCSIケーブルの特性インピーダンス値を統一してください。特性インピーダンス値は、SCSIケーブルのパッケージやケーブル自体に印刷されています。弊社製SCSIケーブルの場合は、約90Ωに統一されています。
- SCSIケーブルは一般的なSCSI-2の標準に適合したものを使用してください。
- SCSIケーブルを接続する前に、コネクタのピンが折れたり曲がったりしていないか確認してください。
- SCSI標準搭載のMacintoshに接続するときは、弊社製接続キットDCK-ADAPを別途ご購入ください。
- SCSI非搭載のMacintoshに接続するときは、弊社製SCSIインターフェースボードIFC-USLPを別途ご購入ください。

2 ターミネータ（終端抵抗）

- デイジーチェーン（*）の終端に接続するSCSI機器には、必ずターミネータを取り付けてください。ターミネータ機能を内蔵するSCSI機器を終端に接続した場合は、ターミネータ機能を有効にしてください。
内蔵SCSI機器の場合も、SCSIケーブルの終端（1台目用のコネクタ）に接続するSCSI機器は必ずターミネータ機能を有効にしてください。

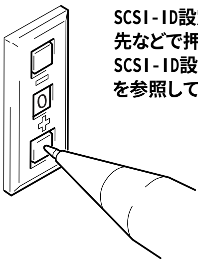
  * 複数のSCSI機器をケーブルで直列につないだ状態

- SCSIケーブルやターミネータを取り外すときは、クランパ（2箇所）を押さえながら引き抜いてください。
SCSIケーブルやターミネータを取り付けるときは、カチッと音がするまでしっかり差し込んでください。
- SCSI機器のコネクタ形状に合ったターミネータを用意してください。本製品のコネクタ形状はD-subハーフピッチ50ピンです。弊社製ターミネータDKC-TDや、弊社製SCSIインターフェースボード（IFC-NSPを除く）に付属のターミネータを使用してください。



3 SCSI-ID

- 複数のSCSI機器を併用するときは、SCSI-IDが他のSCSI機器と重複しないように変更してください。
- SCSI-IDは0～6の範囲で設定してください。7は通常SCSIインターフェースが使用します。0から順に1、2、3...と連続して設定することをおすすめします。
本製品のSCSI-IDは出荷時に0に設定されています。



SCSI-ID設定スイッチをボールペンの先などで押して設定します。
SCSI-ID設定スイッチの位置はP7を参照してください。

⚠注意 **芯が折れたり、砕けた芯の粉末が発生する鉛筆などの筆記具は使用しないでください。**

4 システム全般

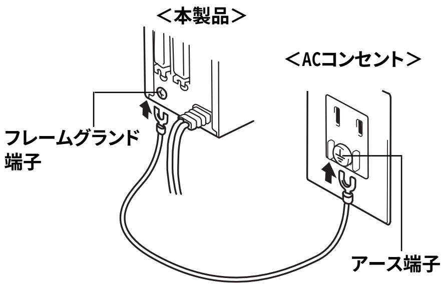
⚠注意 **パソコンおよび本製品は精密機器です。巻頭の「安全にお使いいただくために必ずお守りください」を必ず参照してください。**

- 取り付け作業をするときは、必ずパソコン本体と周辺機器のマニュアルを参照してください。
- 取り付け作業を始める前に、必ずパソコンの電源スイッチをOFFにしてください。
- 大切なデータを守るため、パソコンと周辺機器の電源スイッチをOFFにする前にアプリケーションをすべて終了し、ハードディスクなどに記録されているデータを他のメディア（MOディスクやCD-Rなど）に保存してください。
- 取り付け作業を始める前に、次の物を用意してください。
  - 本製品および付属品
  - パソコンと周辺機器のマニュアル
  - Ultra SCSI/SCSI-2インターフェース
    ※ 弊社製Ultra SCSI/SCSI-2インターフェースが必要です。
    ※ 取り付け方法などは、Ultra SCSI/SCSI-2インターフェースのマニュアルを参照してください。
  - ターミネータ（D-subハーフピッチ50ピン用）
- 複数のSCSI機器を接続するとき
  システムの動作が不安定になる場合があります。その場合は、次の方法で回避できることがあります。
  - Ultra SCSI対応機器（本製品を含む）をデイジーチェーンの終端、またはその近くに接続する
  - できるだけ短いSCSIケーブルでSCSI機器を接続する
  - 接続しているSCSI機器の電源スイッチをすべてONにする

  以上の作業を行っても回避できないときは、接続するSCSI機器の台数を減らしてください。

  メモ **Ultra SCSIインターフェースを使用すると、データ転送速度（理論値）がSCSIインターフェースの2倍になりますが、データをやり取りするタイミングが厳密になるため、複数のSCSI機器を接続した場合に動作が不安定になることがあります。**

- アースの接続について
  - パソコンに接続するすべての機器（プリンタやSCSI機器など）に、アースを接続してください。一部の機器にだけ接続することは危険です。また、アースを接続しないで使用すると、漏電による故障や感電のおそれがあります。
  - SCSIケーブルや電源ケーブルを接続する前にアースを接続してください。
  - アース線はガス管や水道管には接続しないでください。火災や漏電のおそれがあります。



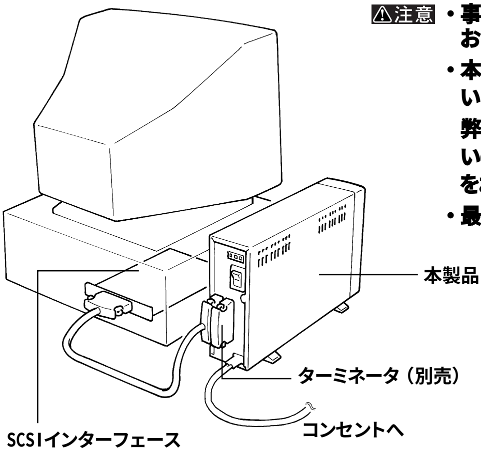
パソコンとの接続

⚠注意 **事前にパソコンと周辺機器（本製品を含む）の電源スイッチをOFFにしてください。**

本製品だけを接続する場合

⚠注意
- **事前にSCSIインターフェースをパソコンに取り付けておいてください。**
- **本製品に必ずターミネータ（別売）を取り付けてください。**

  弊社製SCSIインターフェース（IFC-NSPを除く）をお使いの場合はSCSIインターフェースに付属のターミネータをお使いください。
- **最後に電源ケーブルをコンセントに接続してください。**



2

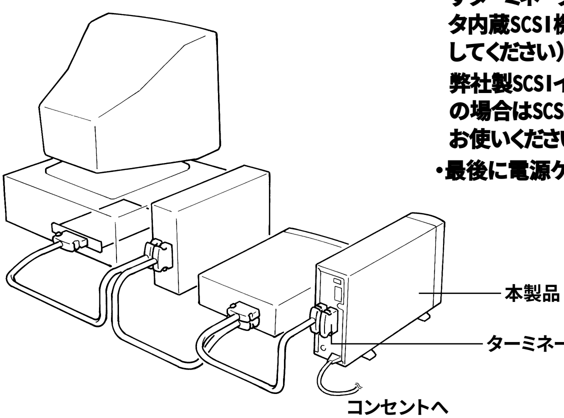
接続しよう

SCSI機器が複数台ある場合

下の図は、本製品をデイジーチェーンの終端に接続した場合の例です。

⚠注意
- **デイジーチェーンの終端に接続したSCSI機器には、必ずターミネータ（別売）を取り付けてください（ターミネータ内蔵SCSI機器の場合は、ターミネータ機能を有効にしてください）。**

  弊社製SCSIインターフェース（IFC-NSPを除く）をお使いの場合はSCSIインターフェースに付属のターミネータをお使いください。
- **最後に電源ケーブルをコンセントに接続してください。**



使用上の注意

● 本製品を起動ドライブにしない場合は、OSやアプリケーションをインストールする必要はありません。本製品をフォーマットしたら、そのまま使用できます。

● WindowsまたはDOSで使用する場合は、8.4GBを超える容量のハードディスクに対応しているOSやSCSIインターフェースを使用してください。
対応OSについては「仕様」【P66】を参照してください。
対応SCSIインターフェースについては、別紙の「DSCシリーズの対応SCSIインターフェース」を参照してください。

● Windows95で本製品を使用する場合、Windows95のバージョンによってフォーマット手順が一部異なります。
本製品をフォーマットする前に、次の手順でWindows95のバージョンを確認してください。

1 デスクトップの[マイ コンピュータ]をマウスの右ボタンでクリックします。

2 表示されたメニューから[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]を選択します。

3



[ｼｽﾃﾑ]に表示されるWindows95のバージョンを確認します。
バージョンは次の4種類です。

- 4.00.950
- 4.00.950a
- 4.00.950 B
- 4.00.950 C

3 必ずフォーマットしよう（DOS/V機、PC98-NXシリーズ）

DOS/V機およびPC98-NXシリーズで本製品を使用する場合のフォーマット（初期化）方法などを説明しています。

フォーマット時の注意

- OS付属のフォーマッタの使いかたは、OSのマニュアルで確認してください。
- 問題が発生したときやパソコンの環境設定を行うために、OSの起動ディスクを作成してください。作成方法は、各OSのマニュアルやヘルプを参照してください。
- フォーマット中は、絶対にパソコンの電源スイッチをOFFにしたり、リセットしないでください。
  ディスクが破損するなどの問題が発生します。また、以後の動作についても保証できません。ご注意ください。
- 本書に記載している実行例は、あくまでも参考のためのものです。フォーマットするときは、必ず使用しているOSのマニュアルを参照してください。
- フォーマットすると、ハードディスク内にあるデータは失われます。フォーマットする前に、ハードディスクの使用環境をもう一度よく確認してください。
  フォーマットはお客様ご自身の責任で行うものです。誤って大切なデータやプログラムを削除しないように、フォーマットを実行するディスクが何台目のディスクか、また、ドライブ名は何か必ず確認しておいてください。

Windowsによる制限

OS	制限事項
WindowsMe	特に制限はありません。
Windows98SE/98、 Windows95（4.00.950 B/4.00.950 C）	Windows98SE/98/95に付属のパーティション作成ソフト「FDISK」は、64GBを超える容量のハードディスクに対応していません。 Windows98SE/98をご使用の方で、64GBを超えるDSCシリーズにOSをインストールする場合は、この問題を解消した「FDISK」を、マイクロソフト社のホームページ(http://support.microsoft.com/)からダウンロードして、ハードディスクをフォーマットしてください。 OSをインストールしない場合は、本製品付属の「Disk Formatter」で本製品をフォーマットしてください。
Windows95（4.00.950/4.00.950a）	ファイルシステムにFAT16を採用しているため、ハードディスクに複数の領域を作成して使用する必要があります。1領域あたりの最大容量は2.1GBとなります。
WindowsXP/2000	パーティションのファイルシステムにFAT32を使用する場合、1パーティションあたりの最大サイズは32.7GBとなります。
WindowsNT4.0/3.51	OSのインストール時に起動用の領域に割り当てられる容量は、最大4.3GBです。その他の領域はファイルシステム【P35】にNTFSを使用することで、4.3GBを超える容量の領域を作成できます。
Windows3.1、DOS	ファイルシステムにFAT16を採用しているため、ハードディスクに複数の領域を作成して使用する必要があります。1領域あたりの最大容量は2.1GBとなります。1つのドライブで使用できる容量は、すべての領域を合わせて8.4GBまでです(Disk Formatter使用時を除く)。

※ Windows95のバージョンは、「使用上の注意」【P14】を参照して確認してください。
※ FAT16とFAT32の違いについてはP18を参照してください。

WindowsMe/98SE/98/95（本製品を起動用にしない場合）

本製品を起動用にしない場合は、付属のフロッピーディスクに収録されている「Disk Formatter」を使用してフォーマットします。

⚠注意
- Disk FormatterはWindowsMe/98SE/98/95用です。WindowsXP/2000/NT4.0/NT3.51/3.1、DOSでは使用できません。
- Disk Formatterは、ハードディスクを拡張MS-DOS領域としてフォーマットします。Disk Formatterでフォーマットした領域からはOSを起動できません。

次の手順でDisk Formatterをインストールします。

パソコンに付属のフロッピーディスクをセットする

▼

[スタート]-[ファイル名を指定して実行]とクリックする

▼

[名前]にA:\FORMAT\SETUP.EXEと入力し、[OK]をクリックする
(A:\のAには、フロッピードライブ名を指定してください)

▼

画面の指示に従ってインストールする

以上でインストールは完了です。

[スタート]－[プログラム]－[MELCO DISK FORMATTER]－[DISK FORMATTER]の順に選択すると、次の画面が表示されます。

⚠注意 フォーマットするドライブを間違えないでください。



① フォーマットするドライブを選択します。
② フォーマットする空き領域をクリックします。
③ ［ファイルシステム］と［サイズ］を設定します。
④ 必要に応じて［ボリュームラベル］を入力します。
⑤ ［フォーマット］をクリックします。

メモ 詳しいインストール手順や使用例は、別冊「Disk Formatterソフトウェアマニュアル」を参照してください。

⚠注意 フォーマットが終わったらパソコンを再起動する必要があります。再起動後、本製品が使用可能になります。

WindowsMe/98SE/98/95（本製品を起動用にする場合）

本製品にWindowsMe/98SE/98/95をインストールする手順は、パソコンの環境によって異なります。パソコン本体やWindowsのマニュアルに記載された手順に従ってインストールしてください。ここでは、Windows付属のFDISKを使って本製品に領域を作成してから、Windowsをインストールする手順を説明します。

⚠注意
- 事前に、パソコンおよびWindowsのマニュアルに記載されている、ハードディスクのフォーマットやWindowsのインストールに関する項目を、必ず参照してください。
- ここでは起動ディスクからFDISKを実行し、領域を作成する手順を説明します。パソコンまたはWindowsに付属する起動ディスクを用意してください。起動ディスクがない場合は、パソコンまたはWindowsのマニュアルを参照し、作成してください。
- 本製品にWindowsをインストールする場合、付属のフロッピーディスクに収録されている「Disk Formatter」は使用できません。
- SCSIハードディスクからパソコンを起動できる状態にしておく必要があります（IDEハードディスクを取り外すなど）。詳しくは、パソコンメーカにお問い合わせください。
- SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース（ノート用PCカード、弊社製IFC-NSPなど）では、SCSIハードディスクを起動ドライブとして使用できません。

手順の概要

1 起動ディスクからパソコンを起動し、FDISKを起動する【P18】

▼

2 基本MS-DOS領域を任意の容量で作成する【P20】

▼

3 拡張MS-DOS領域を作成し、拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成する【P21】

▼

パソコンを再起動する

▼

Windowsをインストールする

1 FDISKの起動

1 **Windowsの起動ディスクをフロッピードライブにセットします。**

2 **周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにします。**

MS-DOSプロンプトが起動します。

3 **FDISKと入力し、<Enter>キーを押します。**

WindowsMe/98SE/98/95(4.00.950 B/4.00.950 C)を使用しているとき

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか」と表示されます。

```
512 MB以上のディスクがあります. このバージョンのWindowsでは, 大容量のディスク
のサポートが強化され, ディスク領域を有効に使えるようになりました. 2 GB以上の
ドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます.

重要 : 大容量ディスクのサポートを使用可能にして, このディスクに新しいドライブ
を作成した場合, ほかのオペレーティング システムを使ってこの新しいドライブに
アクセスすることはできません (Windows 95とWindows NTの特定のバージョン,
以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む). また, FAT32ファイルシステム
用に設計されていないディスクユーティリティは, 正常に動作しません.
このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティ
にアクセスする必要がある場合, 大容量ドライブのサポートは使用しないでください.

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)...........? [ ]
```

1つの領域で確保する容量が2.1GB以上のときは、<Y>キーを押してから<Enter>キーを押します。2.1GB以下のときは、 <N>キーを押してから<Enter>キーを押します。
FAT32に非対応のアプリケーションを使用するときは、<N>キーを押してください。

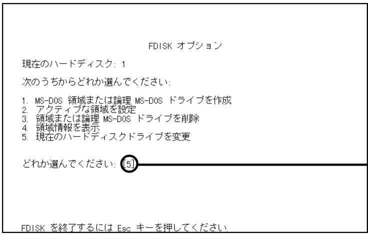
FAT16とFAT32の特徴

FAT16とFAT32には、それぞれ次のような長所と短所があります。

FAT16	長所	Windows95(4.00.950/4.00.950a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSでも使用できる。
	短所	・1つの領域として確保できる容量は最大2047MBまで。
		・確保する容量が大きくなるとクラスタサイズも大きくなり、ディスクの使用が非効率的になる。
FAT32	長所	・クラスタサイズがFAT16よりも小さく、ディスクを効率的に使用できる。
		・1つの領域として2047MBを超える容量を確保できる。
	短所	・Windows95(4.00.950/4.00.950a)、WindowsNT、Windows3.1、DOSなどでは使用できない。
		・確保する領域が512MB以下のときは、FAT16としてフォーマットされる(FAT32としてはフォーマットできません)。

フォーマットするハードディスクの選択とハードディスク環境の確認

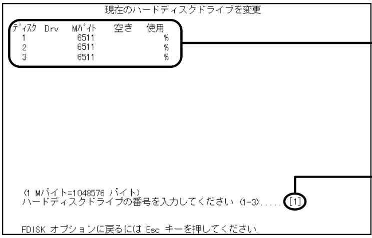
1



5と入力し、 <Enter>キーを押します。

⚠注意 **パソコンに接続しているハードディスクが本製品だけの場合は、[5.現在のハードディスクドライブを変更]は表示されません。そのまま領域を作成してください。【P20「基本MS-DOS領域の作成」】**

2



① 現在パソコンに接続されているハードディスクの状態を確認します。 (*)

② 本製品のディスク番号を入力し、<Enter>キーを押します。
入力した番号のハードディスクが選択され、 領域作成などの操作対象ハードディスク (現在のハードディスク) になります。

* [ﾃﾞｨｽｸ] .... ハードディスクに割り当てられた番号
[Drv] ....ドライブ名(C:など。未フォーマットの場合は何も表示されません)
[Mﾊﾞｲﾄ] .... 領域の容量
[空き] ....ドライブの空き容量(未フォーマットの場合は何も表示されません)
[使用] ....ドライブの使用率(未フォーマットの場合は何も表示されません)

⚠注意 **本製品以外のハードディスクも接続している場合は、誤って他のハードディスクを選択しないように注意してください。**

2 基本MS-DOS領域の作成

本製品を起動用にするときは、必ず基本MS-DOS領域を1つ作成してください。

本製品を起動用にしないときは、付属のフロッピーディスクに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットしてください。基本MS-DOS領域を作成する必要はありません。**【P16】**

⚠注意 **基本MS-DOS領域から優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクに基本MS-DOS領域を作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。**

1

```
                    FDISK オプション

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください: [1]

FDISK を終了するには Esc キーを押してください.
```

1を入力し、 <Enter>キーを押します。

2

```
     MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. 基本 MS-DOS 領域を作成
2. 拡張 MS-DOS 領域を作成
3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

どれか選んでください: [1]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.
```

1を入力し、 <Enter>キーを押します。

3

```
                基本 MS-DOS 領域を作成

現在のハードディスク: 1

基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか
(Y/N)..................................................? [N]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.
```

Nを入力し、 <Enter>キーを押します。
最大サイズを割り当てるときは、Yを入力して手順5へ進んでください。

4

```
                基本 MS-DOS 領域を作成

現在のハードディスク: 1



ディスクの総容量は 6511 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)
領域に割り当て可能な最大領域は 6511 Mバイト(100%)です.

領域のサイズを Mバイトか全体に対する割合で(%)入力してください.
基本 MS-DOS 領域を作ります.......................................: [6511]

領域は定義されていません.

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.
```

作成したい基本MS-DOS領域のサイズをMBまたは%で入力し、<Enter>キーを押します。
基本MS-DOS領域が作成されます。

5

```
            基本 MS-DOS 領域を作成

現在のハードディスク: 1

領域     状態    種類   ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ   Mﾊﾞｲﾄ   ｼｽﾃﾑ     使用
 C: 1           PRI DOS               2047   UNKNOWN    31%

基本 MS-DOS 領域を作成しました. ドライブ名は変更または追加されました.

続けるには Esc キーを押してください._
```

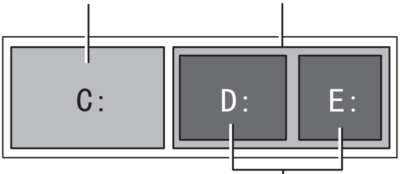
<Esc>キーを押します。

3 拡張 MS-DOS 領域の作成

基本MS-DOS領域を作成した後に空き領域が残っている場合は、残りの領域すべてを拡張MS-DOS領域として確保します。拡張MS-DOS領域作成後、論理MS-DOSドライブを拡張MS-DOS領域内に作成します。

ドライブ全体を基本MS-DOS領域として確保した場合は、拡張MS-DOS領域を作成する必要はありません。

領域の作成例）



メモ 作成した論理MS-DOSドライブが、Windows上で確認できるドライブになります。

1

```
              FDISK オプション

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更

どれか選んでください: [1]

FDISK を終了するには Esc キーを押してください.
```

1を入力し、 <Enter>キーを押します。

2

```
   MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成

現在のハードディスク: 1

次のうちからどれか選んでください:

1. 基本 MS-DOS 領域を作成
2. 拡張 MS-DOS 領域を作成
3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

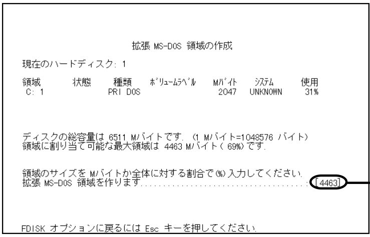
どれか選んでください: [2]

FDISK オプションに戻るには Esc キーを押してください.
```

2を入力し、 <Enter>キーを押します。

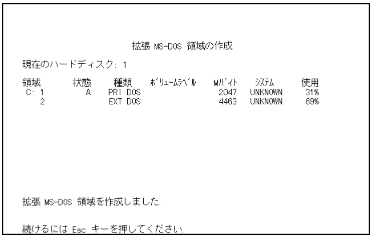
次のページへ続く

3



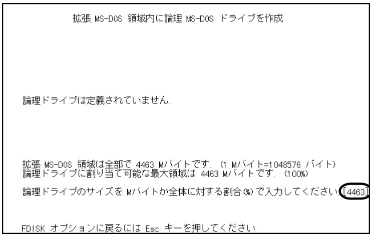
作成したい拡張MS-DOS領域のサイズをMBまたは%で入力し、 <Enter>キーを押します。
拡張MS-DOS領域が作成されます。

4



<Esc>キーを押します。

5



作成したい論理MS-DOSドライブのサイズをMBまたは%で入力し、 <Enter>キーを押します。
論理MS-DOS領域が作成されます。

6 **作成する領域の数だけ手順 5 を繰り返します。**

7 **すべての領域を作成したら、<Esc>キーを押します。**

領域の削除

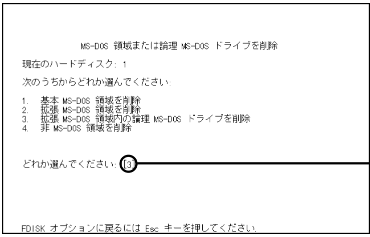
領域を作成し直すときは、既存の領域を削除します。
ここでは、拡張MS-DOS領域を削除する手順を説明します。

1 **[4.領域情報を表示]を選択します。選択しているドライブの領域情報が表示されるので、削除しても構わない領域であることを確認します。確認したら、<Esc>キーを押します。**

2 **[3.領域または論理MS-DOSドライブを削除]を選択します。**

基本MS-DOS領域を削除するときは[1.基本MS-DOS領域を削除]を選択し、表示されるメッセージに従って操作してください。

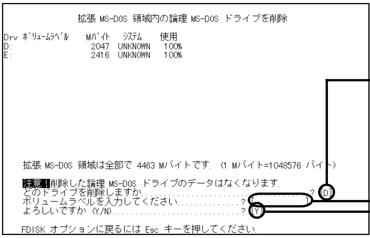
3



3を入力し、 <Enter>キーを押します。

「削除する論理ドライブはありません」と表示されたときは、手順７以降の操作を行って、拡張MS-DOS領域を削除してください。

4



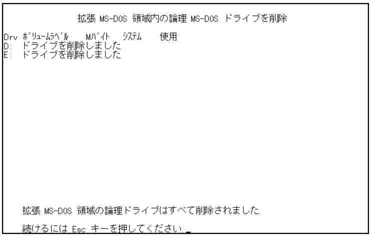
① ドライブ名を入力し、 <Enter>キーを押します。

② ボリュームラベルがつけられているときは、 ボリュームラベルを入力します。

③ Yを入力し、 <Enter>キーを押します。

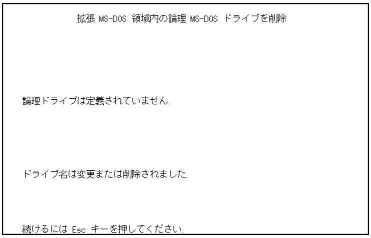
ドライブが削除されます。
複数の論理MS-DOSドライブがあるときは、すべての論理ドライブに対してこの操作を行います。

5



<Esc>キーを押します。

6



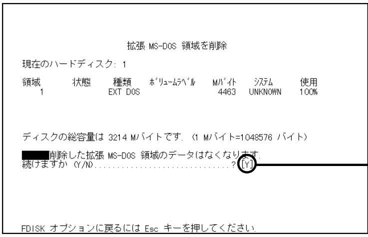
<Esc>キーを押します。

7 [3.領域または論理MS-DOSドライブを削除]を選択します。

8 [2.拡張MS-DOS領域を削除]を選択します。

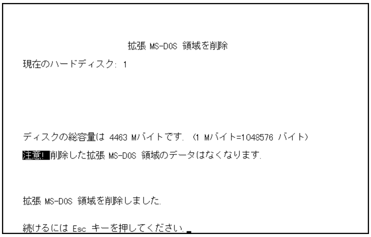
次のページへ続く

9



Yを入力し、 <Enter>キーを押します。

10



<Esc>キーを押します。

領域の作成が終わったら

FDISKを終了し、Windowsをインストールします。

1 すべての領域を作成できたら、<Esc>キーを押します。

FDISK画面に戻ります。

2 再度<Esc>キーを押します。

FDISKが終了します。

3 パソコンを再起動し、Windowsをインストールします。

メモ Windowsのインストールについては、パソコンまたはWindowsのマニュアルを参照してください。

WindowsXP/2000（プライマリパーティションを作る場合）

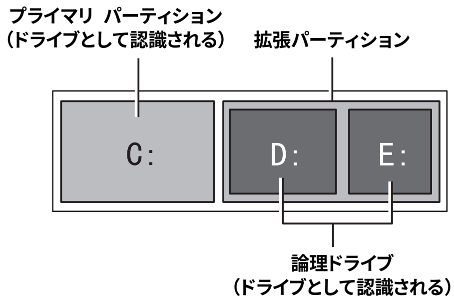
メモ **本製品にWindowsXP/2000をインストールする場合**
インストールの途中で本製品がフォーマットされます。事前にフォーマットする必要はありません。
WindowsXP/2000のマニュアルに従って、インストールしてください。

メモ **WindowsXP Professional（※）またはWindows2000でハードディスクをフォーマットする場合**
本書では、ハードディスクをベーシック　ディスクとして使用する手順を説明します。ダイナミック　ディスクとして使用する場合は、Windowsのヘルプを参照し、フォーマットしてください。また、ベーシック　ディスクとダイナミック　ディスクの違いに関しても、Windowsのヘルプを参照してください。
※ WindowsXP Home Editionは、ダイナミック　ディスクをサポートしていません。

WindowsXP/2000のフォーマット機能を使って、ハードディスクをフォーマットします。ここでは、プライマリ　パーティション（※）を作る手順を説明します。

※ パーティションとは、ハードディスク内に作る区画です。作成したパーティションは、1つのドライブとして認識されます。

パーティションの作成例）



パーティションには、プライマリ　パーティションと拡張パーティションの2種類があります。拡張パーティションは、その中に論理ドライブを作成する必要があります。どちらのパーティションを作成しても、基本的に違いはありませんので、通常はプライマリ　パーティションを作成してください。
ただし、次のいずれかに該当する場合は注意してください。

- ハードディスク1台に5つ以上のパーティション（ドライブ）を作成する
  1台のハードディスクに作成できるプライマリ　パーティションは、最大4つです。5つ以上のパーティションを作る場合は、拡張パーティションを作成し、その中に論理ドライブを作成してください。
- 別のOSをインストールし、マルチブート環境を作る
  OSをインストールするパーティションを、プライマリ　パーティションにしてください。

⚠注意
- **フォーマットするときは、必ずOSのヘルプを参照してください。**
- **付属ソフト「Disk Formatter」は使用しないでください。Disk Formatterは、WindowsXP/2000に対応していません。**
- **以下の説明では、WindowsXPの画面を使用しています。**

次のページへ続く

1 周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにします。

2 WindowsXP/2000を起動し、コンピュータの管理者権限があるユーザー名（Administratorなど）でログオンします。

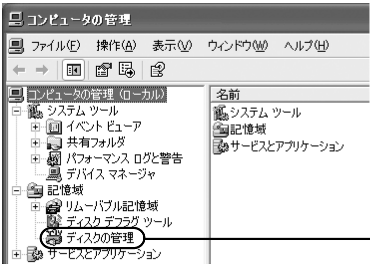
3 [スタート]をクリックし、[マイ コンピュータ]をマウスの右ボタンでクリックします。

Windows2000の場合

デスクトップの[マイ コンピュータ]を、マウスの右ボタンでクリックします。

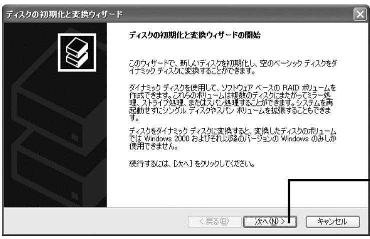
4 メニューが表示されたら[管理]をクリックします。

5



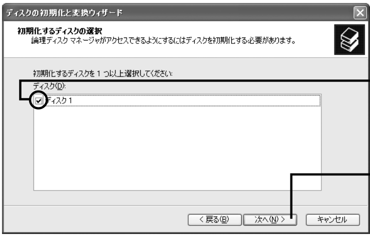
[ディスクの管理] をクリックします。

6 WindowsXPで初めて使用するハードディスクの場合は[ディスクの初期化と変換ウィザードの開始]が表示されます（Windows2000で初めて使用するハードディスクの場合は[ディスクのアップグレードと署名ウィザードの開始]が表示されます）。



[次へ] をクリックします。

7　初期化するディスクの選択をします（Windows2000の場合は、署名するディスクの選択をします）。



① ディスク（例：ディスク1）をクリックしてチェックマーク（✓）を付けます。

② ［次へ］をクリックします。

8　変換するディスクの選択をします（Windows2000の場合は、アップグレードするディスクの選択をします）。



① ディスク（例：ディスク1）をクリックしてチェックマーク（✓）を外します。

② ［次へ］をクリックします。

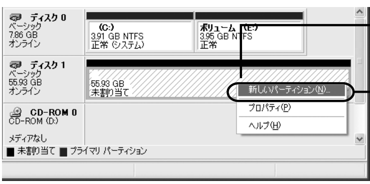
9　［ディスクの初期化と変換ウィザードの完了］（Windows2000の場合は［ディスクのアップグレードと署名ウィザードの完了］）と表示されたら、［完了］をクリックします。

10



未割り当て領域が表示されます。

11



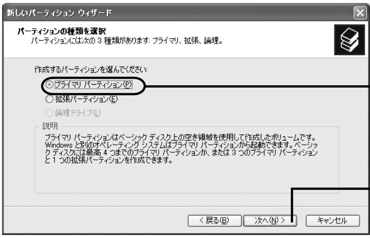
① 未割り当て領域を、マウスの右ボタンでクリックします。

② ［新しいパーティション］をクリックします（Windows2000の場合は［パーティションの作成］をクリックします）。

次のページへ続く

12 **[新しいパーティション ウィザードの開始]（Windows2000の場合は[パーティションの作成ウィザードの開始]）と表示されたら、[次へ]をクリックします。**

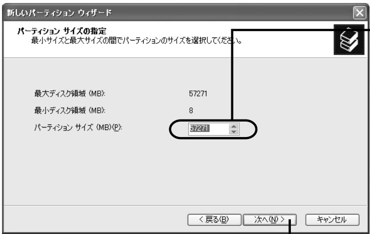
13



① [プライマリ パーティション] をクリックして、 チェックマーク（・）を付けます。

② [次へ] をクリックします。

14

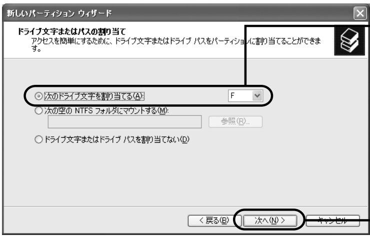


① [パーティション サイズ] でサイズを指定します（Windows2000の場合は [使用するディスク領域] でサイズを指定します）。

※ サイズを変更する必要がない場合は、初期設定のまま最大値を指定します。
ファイルシステムにFAT32を使用する場合は、32700MB（32.7GB）以下の値を指定してください。

② [次へ] をクリックします。

15



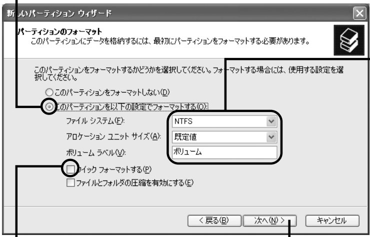
① [次のドライブ文字を割り当てる]（Windows2000の場合は [ドライブ文字の割り当て]）をクリックし、ドライブ文字を指定します。

※ 特に設定を変更する必要がなければ、初期設定のままにしてください。

② [次へ] をクリックします。

16 フォーマット形式などを設定します。

① ［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］をクリックして、チェックマーク（•）を付けます。



必要に応じて設定を変更します。
特に必要がなければ、［ファイル　システム］（※）と［アロケーション　ユニット　サイズ］は初期設定のままにしてください。
［ボリューム　ラベル］には、ドライブの名前をお好みで入力できます。

② 各項目を設定したら、［次へ］をクリックします。

［クイックフォーマットする］にチェックマーク（✓）を付けると、フォーマット時間が短縮されます。

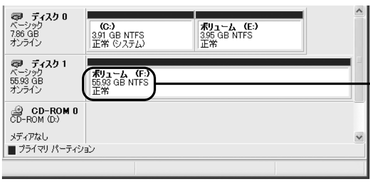
※ WindowsXP/2000だけで本製品を使用する場合は、［NTFS］を選択してください。マルチブート環境などで他のOSからアクセスするパーティションの場合は、［FAT］を選択してください。ファイルシステムに関する詳細は、Windowsのヘルプを参照してください。

17 ［新しいパーティション　ウィザードの完了］（Windows2000の場合は［パーティションの作成ウィザードの完了］）と表示されたら、［完了］をクリックします。

フォーマットが始まり、進行状態が%表示されます。

メモ
- クイックフォーマット実行時は、%表示はされません。
- フォーマットを中止する場合は、フォーマット中のパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、［フォーマットの中止］をクリックします。

18



フォーマットが正常に終了すると、ボリュームラベルとパーティションに加えて、「正常」と表示されます。

次のページへ続く

「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というメッセージが表示された場合

パーティションは作成されていますが、フォーマットは完了していません。［OK］をクリックし、作成したパーティションを次の手順でフォーマットしてください。

1 作成したパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、［フォーマット］を選択します。

2 必要に応じてボリュームラベルやファイルシステムを設定し、［次へ］をクリックします。
［クイック フォーマットする］にチェックマーク（✓）を付けると、フォーマット時間が短縮されます。

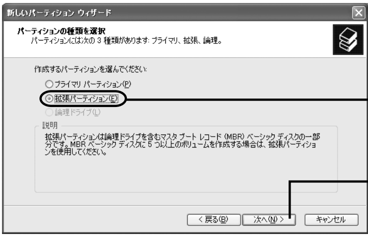
3 以降は画面のメッセージに従って操作します。

以上で、プライマリ パーティションのフォーマットは完了です。

WindowsXP/2000（拡張パーティション／論理ドライブを作る場合）

1 「プライマリパーティションを作る場合」【P25】の手順１～12の操作を行います。

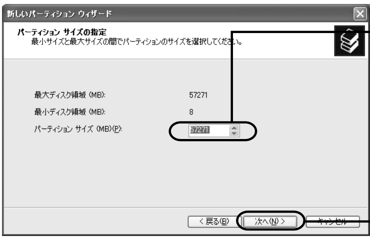
2



① ［拡張パーティション］をクリックして、チェックマーク（・）を付けます。

② ［次へ］をクリックします。

3



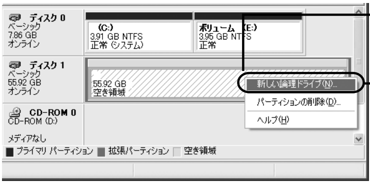
① ［パーティション サイズ］でサイズを指定します（Windows2000の場合は［使用するディスク領域］でサイズを指定します）。

※ サイズを変更する必要がない場合は、初期設定のまま最大値を指定します。

② ［次へ］をクリックします。

4 ［新しいパーティション ウィザードの完了］（Windows2000の場合は［パーティションの作成ウィザードの完了］）と表示されたら、［完了］をクリックします。

5

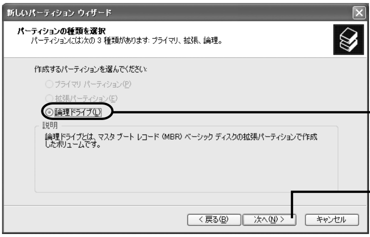


① 空き領域をマウスの右ボタンでクリックします。

② ［新しい論理ドライブ］（Windows2000の場合は［論理ドライブの作成］）をクリックします。

6 **［新しいパーティション ウィザードの開始］（Windows2000の場合は［パーティションの作成ウィザードの開始］）と表示されたら、［次へ］をクリックします。**

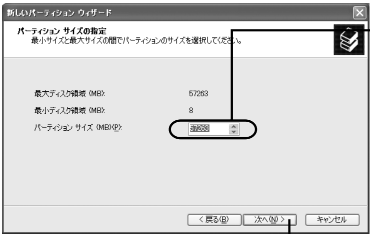
7



① ［論理ドライブ］が選択されていることを確認します。

② ［次へ］をクリックします。

8

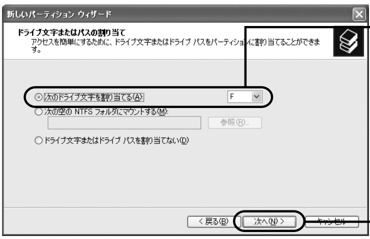


① ［パーティション サイズ］でサイズを指定します（Windows2000の場合は［使用するディスク領域］でサイズを指定します）。

※ サイズを変更する必要がない場合は、初期設定のまま最大値を指定します。
ファイルシステムにFAT32を使用する場合は、32700MB（32.7GB）以下の値を指定してください。

② ［次へ］をクリックします。

9



① ［次のドライブ文字を割り当てる］（Windows2000の場合は［ドライブ文字の割り当て］）をクリックし、ドライブ文字を指定します。

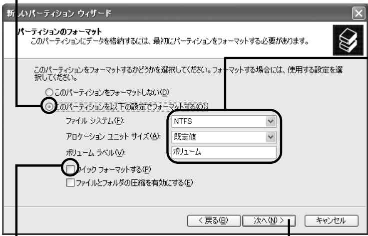
※ 特に設定を変更する必要がなければ、初期設定のままにしてください。

② ［次へ］をクリックします。

次のページへ続く

10 フォーマット形式などを設定します。

①［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］をクリックして、チェックマーク（•）を付けます。



必要に応じて設定を変更します。
特に必要がなければ、［ファイル　システム］（※）と［アロケーション ユニット サイズ］は初期設定のままにしてください。
［ボリューム ラベル］には、ドライブの名前をお好みで入力できます。

② 各項目を設定したら、［次へ］をクリックします。

［クイックフォーマットする］にチェックマーク（✓）を付けると、フォーマット時間が短縮されます。

※ WindowsXP/2000だけで使用するパーティションの場合は、[NTFS]を使用してください。マルチブート環境などで他のOSからアクセスするパーティションの場合は、[FAT]を選択してください。ファイルシステムに関する詳細は、Windowsのヘルプを参照してください。

11 [新しいパーティション ウィザードの完了]（Windows2000の場合は[パーティションの作成ウィザードの完了]）と表示されたら、[完了]をクリックします。

フォーマットが始まり、進行状態が%表示されます。

メモ
- クイックフォーマット実行時は、%表示はされません。
- フォーマットを中止する場合は、フォーマット中のパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、[フォーマットの中止]をクリックします。

12



フォーマットが正常に終了すると、ボリュームラベルとパーティションに加えて、「正常」と表示されます。

「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というメッセージが表示された場合

パーティションは作成されていますが、フォーマットは完了していません。[OK]をクリックし、作成したパーティションを次の手順でフォーマットしてください。

1. 作成したパーティションをマウスの右ボタンでクリックし、[フォーマット]を選択します。
2. 必要に応じてボリュームラベルやファイルシステムを設定し、[次へ]をクリックします。
   [クイック フォーマットする]にチェックマーク(✓)を付けると、フォーマット時間が短縮されます。
3. 以降は画面のメッセージに従って操作します。

以上で拡張パーティション/論理ドライブのフォーマットは完了です。

メモ 論理ドライブを複数作成する場合は、手順 8 でサイズを指定し、以下手順 12 までを作成する数だけ繰り返します。

WindowsNT4.0/3.51

WindowsNT4.0/3.51を使用しているときのフォーマット手順を説明します。

⚠注意 **フォーマットするときは、必ずOSのマニュアルを参照してください。**

1 **周辺機器（本製品を含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにし、WindowsNTを起動します。**

2 **[ｽﾀｰﾄ] − [ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ] − [管理ﾂｰﾙ(共通)] − [ﾃﾞｨｽｸｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀ] を選択します。**

WindowsNT3.51の場合は、[管理ツール] グループの [ディスクアドミニストレータ] をダブルクリックしてください。

⚠注意 **表示されたドライブ構成を把握してから作業してください。誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。**

本製品を新たに増設した場合

「ｼｽﾃﾑ構成を更新します。」というメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

3 **[ﾃﾞｨｽｸｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀ] が起動します。本製品のドライブをクリックします。**

4 **パーティションを作成します。**

一部のSCSIカードでは、複数の領域を確保できない場合があります。その場合は、[拡張ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝの作成] を選択してください。

プライマリパーティションを作成する場合

本製品を起動用として使用するときは、必ずプライマリパーティションを作成してください。本製品を起動用にしないときは、拡張パーティションだけを作成してください。

⚠注意 **プライマリパーティションから優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクにプライマリパーティションを作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。**

1 [ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ] − [作成] を選択します。

2 任意のパーティションサイズを入力して [OK] をクリックします。

拡張パーティションを作成する場合

本製品を起動用として1ドライブだけで使用する場合は、拡張パーティションを作成する必要はありません。

1 [ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ] − [拡張ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝの作成] を選択します。

2 パーティションのサイズを確認し、[OK] をクリックします。

3 作成された空き領域を選択し、[ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ] ー [作成] を選択します。

4 任意のパーティションサイズを入力して [OK] をクリックします。

5 メニューバーから [ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ] ー [今すぐ変更を反映] を選択します。

WindowsNT3.51の場合は[パーティション]ー[直ちに変更を反映]を選択してください。

6 「ﾃﾞｨｽｸ構成を変更しました。変更結果を保存しますか?」というメッセージが表示されたら [はい] をクリックします。

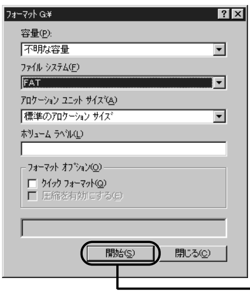
7 「ﾃﾞｨｽｸは正常に更新されました。」というメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。

8 フォーマットするパーティションを選択した後、メニューバーから [ﾂｰﾙ] ー [ﾌｫｰﾏｯﾄ] を選択します。

9 各項目を設定し、[開始] (WindowsNT3.51の場合は [OK])をクリックします。

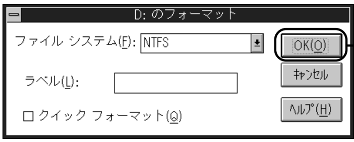
WindowsNT4.0/3.51だけで本製品を使用するときは、[NTFS]を選択してください。
WindowsNT4.0/3.51以外のOSにも認識させたいときは、[FAT]を選択してください。

WindowsNT4.0



クリックします。

WindowsNT3.51



クリックします。

10 「ﾌｫｰﾏｯﾄが完了しました。」というメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

WindowsNT3.51の場合は[フォーマット完了]ダイアログボックスが表示されます。

以上でWindowsNTでのフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、本製品がドライブとして認識されます。

- WindowsNT4.0の場合 .... 作成した領域が、[ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ]に新しいドライブとして追加されています。
- WindowsNT3.51の場合 .... 作成した領域が、[ファイルマネージャ]に新しいドライブとして追加されています。

Windows3.1、DOS

Windows3.1、DOSに付属のフォーマッタを使用したフォーマット手順の概略を説明します。

⚠注意 **フォーマットする際は必ずOSのマニュアルを参照してください。**

フォーマットの前に

誤って他のハードディスクをフォーマットしないように、次の方法で事前に現在のドライブ構成を把握しておいてください。

- Windows3.1 .... [ファイルマネージャ]で表示されているドライブアイコンで知ることができます。
- DOS .... DIRコマンドでアクセス可能なドライブから知ることができます

※ 接続した本製品はフォーマット後に認識されます。フォーマット前は本製品は認識されていません。

フォーマット手順

1 周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにし、DOSを起動します。

DOSのプロンプトが表示されます。

2 FDISKと入力し、<Enter>キーを押します。

3 [5 現在のハードディスクドライブを変更]を選択し、本製品のディスク番号を入力します。

例) 本製品を2台目のドライブとして接続しているときは、ディスク番号を2に変更します。

⚠注意 **誤って他のハードディスクをフォーマットしないよう注意してください。**

4 [1.MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成]を選択します。

5 目的に応じて基本MS-DOS領域または拡張MS-DOS領域を作成します。

基本MS-DOS領域を作成する場合

本製品を起動用にするときは、必ず基本MS-DOS領域を作成してください。
本製品を起動用にしないときは拡張MS-DOS領域だけを作成してください。基本MS-DOS領域を作成する必要はありません。【P37】

⚠注意 **基本MS-DOS領域から優先してドライブ名が割り当てられるため、起動ドライブ以外のハードディスクに基本MS-DOS領域を作成すると、今まで使用していたハードディスクのドライブ名が変更されることがあります。**

1 [1.基本MS-DOS領域を作成]を選択します。

2 「基本MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますか」というメッセージが表示されます。<Y>キーを押して<Enter>キーを押します。

3 「基本MS-DOS領域を作成しました。」というメッセージが表示されます。<Esc>キーを押します。FDISKの初期画面に戻ります。

4 再度<Esc>キーを押してFDISKを終了します。

拡張MS-DOS領域を作成する場合

本製品を起動ドライブとして1ドライブだけで使用する場合は、拡張MS-DOS領域を作成する必要はありません。

1 ［2.拡張MS-DOS領域を作成］を選択します。

2 拡張MS-DOS領域に割り当て可能な容量がMB数で表示されます。<Enter>キーを押します。

3 「拡張MS-DOS領域を作成しました」というメッセージが表示されます。<Esc>キーを押します。

4 ［拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成］画面が表示されます。
論理MS-DOSドライブの容量を入力して<Enter>キーを押します。
拡張MS-DOS領域の空き容量がなくなるまで論理MS-DOSドライブを作成します。

5 論理MS-DOSドライブの作成が終了したら、＜Esc＞キーを押してFDISKを終了します。

6 **画面の指示に従ってパソコンを再起動します。**

7 **DOSを起動し、FORMAT D:と入力し、<Enter>キーを押します。**

下線部には、本製品に割り当てられたドライブ名を入力します。本書では、例としてドライブ名「D」を記載しています。

⚠注意 誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。

8 **「注意! ドライブD:のハードディスクのデータはすべてなくなります。フォーマットしますか(Y/N)?」というメッセージが表示されます。フォーマットするときは、<Y>キーを押してから <Enter>キーを押します。**

9 **フォーマットが終了すると、ボリュームラベルの入力を要求するメッセージが表示されます。任意のボリュームラベルを入力します。**

以上で本製品のフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、本製品がドライブとして認識されます。

- Windows3.1 ....作成した領域が、［ファイルマネージャ］に新しいドライブとして追加されています。
- DOS ....DIRコマンドで作成した領域（ドライブ）の情報を確認できるようになります。

4 必ずフォーマットしよう（PC-9800シリーズ）

PC-9800シリーズで使用する場合のフォーマット（初期化）方法などを説明しています。

フォーマット時の注意

- OS付属のフォーマッタの使いかたは、OSのマニュアルで確認してください。
- 問題が発生したときやパソコンの環境設定を行うために、OSの起動ディスクを作成してください。作成方法は、各OSのマニュアルやヘルプを参照してください。
- フォーマット中は、絶対にパソコンの電源スイッチをOFFにしたり、リセットしないでください。
  ディスクが破損するなどの問題が発生します。また、以後の動作についても保証できません。ご注意ください。
- 本書に記載している実行例は、あくまでも参考のためのものです。フォーマットするときは、必ず使用しているOSのマニュアルを参照してください。
- フォーマットすると、ハードディスク内にあるデータは失われます。フォーマットする前に、ハードディスクの使用環境をもう一度よく確認してください。
  フォーマットはお客様ご自身の責任で行うものです。誤って大切なデータやプログラムを削除しないように、フォーマットを実行するディスクが何台目のディスクか、また、ドライブ名は何か必ず確認しておいてください。

Windowsによる制限

OS	制限事項
Windows98SE/98、 Windows95(4.00.950 B)	ファイルシステムにFAT32を選択できるので、2.1GBを超える領域(パーティション)を作成できます。ただし、FDISK実行時にFAT16を選択した場合、1領域あたりの最大容量は2.1GBとなります。
Windows95(4.00.950/4.00.950a)	ファイルシステムにFAT16を採用しているため、ハードディスクに複数の領域を作成して使用する必要があります。1領域あたりの最大容量は2.1GBとなります。
Windows2000	ファイルシステムにFAT32を使用する場合、1領域あたりの最大容量は32.7GB(32700MB)となります。
WindowsNT4.0/3.51	OSのインストール時に起動用の領域に割り当てられる容量は、最大4.3GBです。その他の領域はファイルシステム【P50】にNTFSを使用することで、4.3GBを超える容量の領域を作成できます。
Windows3.1、MS-DOS	ファイルシステムにFAT16を採用しているため、ハードディスクに複数の領域を作成して使用する必要があります。1領域あたりの最大容量は2.1GBとなります。 1つのドライブで同時に使用できる容量は、すべての領域を併せて8.4GB(4つの領域)までです。

※ Windows95のバージョンは、「使用上の注意」【P14】を参照して確認してください。

※ FAT16とFAT32の違いについてはP41を参照してください。

Windows98SE/98/95（本製品を起動用にしない場合）

本製品を起動用にしない場合は、付属のフロッピーディスクに収録されている「Disk Formatter」を使用してフォーマットします。

⚠注意
- **Disk FormatterはWindows98SE/98/95用です。Windows2000/NT4.0/NT3.51/3.1、DOSでは使用できません。**
- **Windows95を使用している場合、SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース（ノート用PCカード、弊社製IFC-NSPなど）では、8.4GBを超える容量を使用できません。**

次の手順でDisk Formatterをインストールします。

パソコンに付属のフロッピーディスクをセットする

▼

[スタート]-[ファイル名を指定して実行]とクリックする

▼

**[名前]にA:\FORMAT\SETUP.EXEと入力し、[OK]をクリックする
(A:\のAには、フロッピードライブ名を指定してください)**

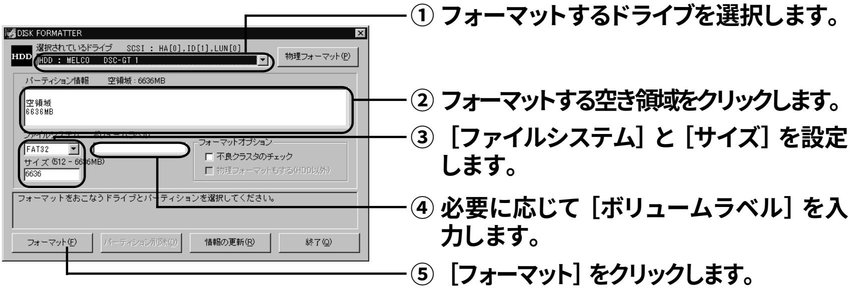
▼

画面の指示に従ってインストールする

以上でインストールは完了です。

[スタート]－[プログラム]－[MELCO DISK FORMATTER]－[DISK FORMATTER]の順に選択すると、次の画面が表示されます。

⚠注意 **フォーマットするドライブを間違えないでください。**



メモ 詳しいインストール手順や使用例は、別冊「Disk Formatterソフトウェアマニュアル」を参照してください。

⚠注意 **フォーマットが終わったらパソコンを再起動する必要があります。再起動後、本製品が使用可能になります。**

4

必ずフォーマットしよう（PC-9800シリーズ）

Windows98SE/98/95（本製品を起動用にする場合）

本製品にWindows98SE/98/95をインストールする手順は、パソコンの環境によって異なります。パソコン本体やWindowsのマニュアルに記載された手順に従ってインストールしてください。ここでは、Windows付属のFDISKを使って本製品に領域を作成してから、Windowsをインストールする手順を説明します。

⚠注意
- **事前に、パソコンおよびWindowsのマニュアルに記載されている、ハードディスクのフォーマットやWindowsのインストールに関する項目を、必ず参照してください。**
- **ここでは起動ディスクからFDISKを実行し、領域を作成する手順を説明します。パソコンまたはWindowsに付属する起動ディスクを用意してください。起動ディスクがない場合は、パソコンまたはWindowsのマニュアルを参照し、作成してください。**
- **Windows95付属のフォーマッタは、8.4GBを超える容量のハードディスクをフォーマットできません。8.4GBを超える容量のハードディスクは、付属のフロッピーディスクに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットしてください。**
- **本製品にWindowsをインストールする場合、付属のフロッピーディスクに収録されている「Disk Formatter」は使用できません。**
- **SCSI BIOSを搭載していないSCSIインターフェース（ノート用PCカード、弊社製IFC-NSPなど）では、SCSIハードディスクを起動ドライブとして使用できません。**

手順の概要

1	起動ディスクからパソコンを起動し、FDISKを起動する【P41】

▼

2	新しいMS-DOS領域を任意の容量で作成する【P43】

▼

パソコンを再起動する

▼

Windowsをインストールする

1 FDISKの起動

1 Windowsの起動ディスクをフロッピードライブにセットします。

2 周辺機器（本製品を含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにします。

MS-DOSプロンプトが起動します。

3 FDISKと入力し、<Enter>キーを押します。

Windows98SE/98/95（4.00.950 B）を使用しているとき

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか」と表示されます。

```
512 MB以上のディスクがあります.

このバージョンの Windows では，このような大容量ディスク
のサポートが強化され，より効率のよいディスク利用やより
大きな領域の定義ができるようになりました。 古いバージョ
ンの MS-DOS，Windows，ディスク ユーティリティなどはこの
大容量ディスク サポートを使用して作成された領域にはアク
セスできません.

複数のオペレーティング システム，または異なるバージョンのオペレーティング
システムをデュアル ブートする場合は，このサポートは使用しないでください.


大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)...........? [ ]
```

1つの領域で確保する容量が2.1GB以上のときは、<Y>キーを押してから<Enter>キーを押します。2.1GB以下のときは、 <N>キーを押してから<Enter>キーを押します。
FAT32に非対応のアプリケーションを使用するときは、<N>キーを押してください。

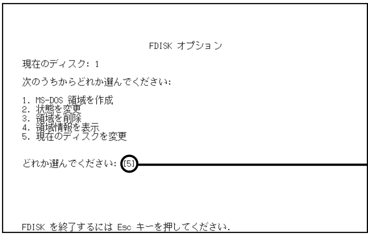
FAT16とFAT32の特徴

FAT16とFAT32には、それぞれ次のような長所と短所があります。

FAT16	長所	Windows95（4.00.950/4.00.950a）、WindowsNT、Windows3.1、DOSでも使用できる。
	短所	・1つの領域として確保できる容量は最大2047MBまで。
		・確保する容量が大きくなるとクラスタサイズも大きくなり、ディスクの使用が非効率的になる。
FAT32	長所	・クラスタサイズがFAT16よりも小さく、ディスクを効率的に使用できる。
		・1つの領域として2047MBを超える容量を確保できる。
	短所	・Windows95（4.00.950/4.00.950a）、WindowsNT、Windows3.1、DOSなどでは使用できない。
		・確保する領域が512MB以下のときは、FAT16としてフォーマットされる（FAT32としてはフォーマットできません）。

フォーマットするハードディスクの選択とハードディスク環境の確認

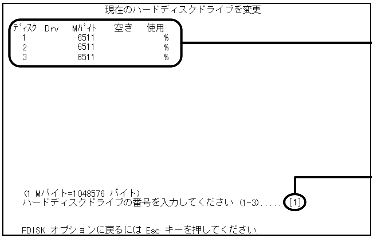
1



5と入力し、 <Enter>キーを押します。

⚠注意 パソコンに接続しているハードディスクが本製品だけの場合は、[5.現在のディスクを変更]は表示されません。そのまま領域を作成してください。【P43「領域の作成（確保）」】

2



① 現在パソコンに接続されているハードディスクの状態を確認します。（*）

② 本製品のディスク番号を入力し、<Enter>キーを押します。
入力した番号のハードディスクが選択され、 領域作成などの操作対象ハードディスク（現在のディスク）になります。

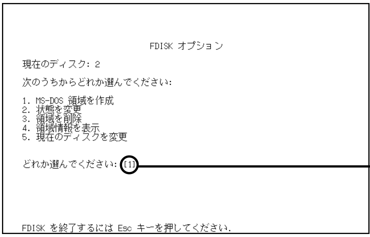
* [ﾃﾞｨｽｸ] .... ハードディスクに割り当てられた番号
[Drv] ....ドライブ名（A:など。未フォーマットの場合は何も表示されません）
[Mﾊﾞｲﾄ] .... 領域の容量
[空き] ....ドライブの空き容量（未フォーマットの場合は何も表示されません）
[使用] ....ドライブの使用率（未フォーマットの場合は何も表示されません）

⚠注意 本製品以外のハードディスクも接続している場合は、誤って他のハードディスクを選択しないように注意してください。

2 領域の作成（確保）

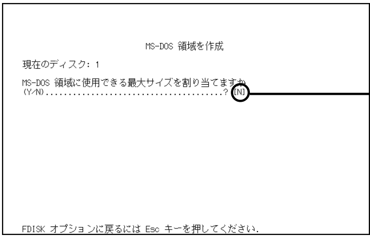
メモ **本製品を起動用にしないときは、付属のフロッピーディスクに収録されている「Disk Formatter」でフォーマットしてください。**【P39】

1



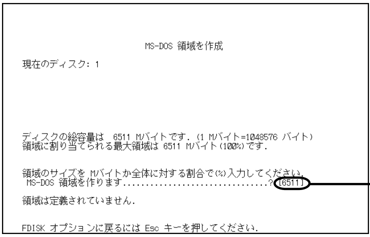
1を入力し、 <Enter>キーを押します。

2



Nを入力し、 <Enter>キーを押します。
最大サイズを割り当てるときは、Yを入力して手順5へ進んでください。

3



作成したいMS-DOS領域のサイズをMBまたは%で入力し、 <Enter>キーを押します。
MS-DOS領域が作成されます。

4 作成する領域の数だけ 1～3 を繰り返します。

5 すべての領域を作成したら、<ESC>キーを押します。

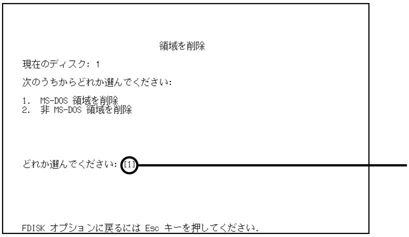
領域の削除

領域を作成し直すときは、既存の領域を削除します。

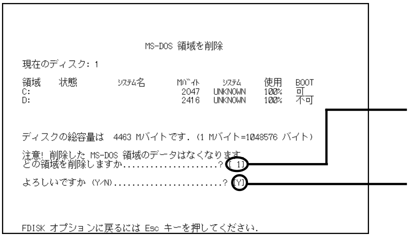
1 **[4.領域情報を表示]を選択します。選択しているドライブの領域情報が表示されるので、削除しても構わない領域であることを確認します。確認したら、<ESC>キーを押します。**

2 **[3.領域を削除]を選択します。**

3



4



領域が削除されます。

領域の作成が終わったら

FDISKを終了し、Windowsをインストールします。

1 **すべての領域を作成できたら、<ESC>キーを押します。**

FDISK画面に戻ります。

2 **再度<ESC>キーを押します。**

FDISKが終了します。

3 **パソコンを再起動し、Windowsをインストールします。**

メモ Windowsのインストールについては、パソコンまたはWindowsのマニュアルを参照してください。

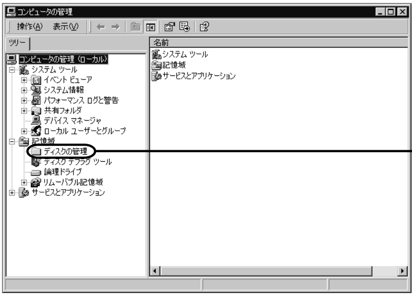
Windows2000

1 **周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにします。**

2 **デスクトップ画面の[マイ コンピュータ]をマウスの右ボタンでクリックします。**

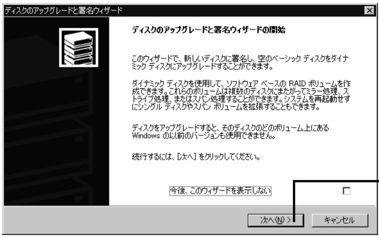
3 **メニューが表示されたら[管理]をクリックします。**

4



[ディスクの管理] をクリックします。

5 **Windows2000で初めて使用するハードディスクドライブの場合は、次の[ディスクのアップグレードと署名ウィザードの開始]が表示されます。**



[次へ] をクリックします。

6 **署名するディスクを選択します。**



① ディスクをクリックしてチェックマーク(✓)を付けます。(例:ディスク1)

② [次へ] をクリックします。

次のページへ続く

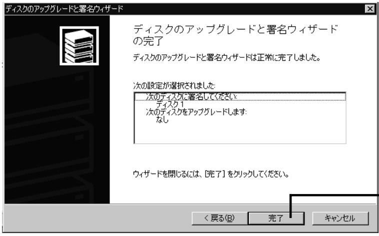
7 続いてアップグレードするディスクの選択画面が表示されます。



①ディスクをクリックしてチェックマーク（✓）を外します。（例：ディスク1）

② ［次へ］をクリックします。

8



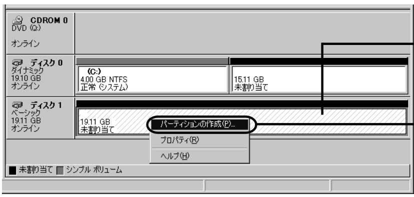
［完了］をクリックします。

9



未割り当て領域が作成されます。

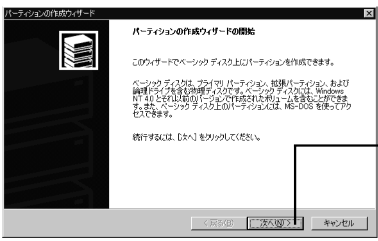
10



① 未割り当て領域をマウスの右ボタンでクリックします。

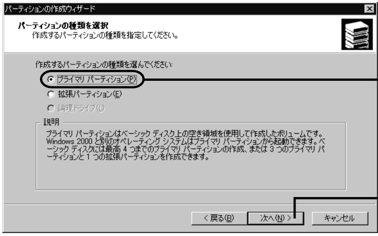
② メニューが表示されたら［パーティションの作成］をクリックします。

11



［次へ］をクリックします。

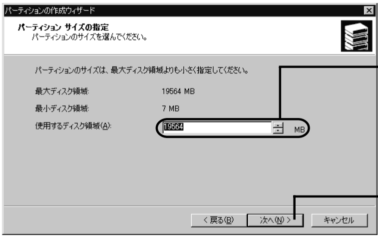
12



① ［プライマリパーティション］をクリックして、チェックマーク（•）を付けます。

② ［次へ］をクリックします。

13

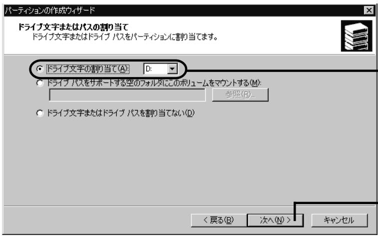


① ［使用するディスク領域］でサイズを指定します。

※ サイズを変更する必要がない場合は、初期設定のまま最大値で確保します。

② ［次へ］をクリックします。

14



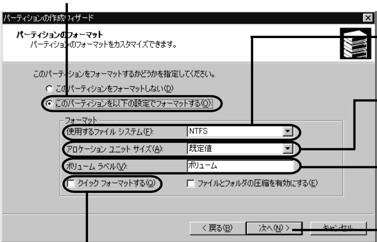
① ［ドライブ文字の割り当て］で割り当てるドライブ名を指定します。

※ 特に設定を変更する必要がなければ、初期設定のままにしてください。

② ［次へ］をクリックします。

15 **フォーマット方法などを設定します。**

① ［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］をクリックして、チェックマーク（•）を付けます。



必要に応じて［使用するファイルシステム］を変更します。（※）

［アロケーションユニットサイズ］は特に問題のない限り、初期設定のまま使用します。

必要に応じて［ボリュームラベル］を入力します。

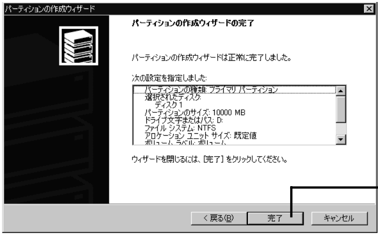
② 各項目を設定したら、［次へ］をクリックします。

［クイックフォーマットする］にチェックマーク（✓）を付けると、クイックフォーマットを行います。フォーマット時間が短縮されます。

※ Windows2000だけで本製品を使用する場合は、［NTFS］を選択してください。
マルチブート環境などで他のOSからアクセスするパーティションの場合は、［FAT］を選択してください。
ファイルシステムに関する詳細は、Windows2000のヘルプを参照してください。

次のページへ続く

16

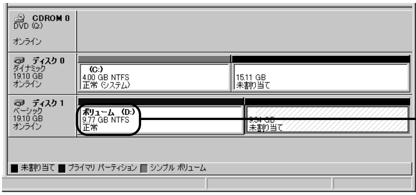


[完了] をクリックします。

フォーマットが始まり、進行状態が%表示されます。

メモ
・クイックフォーマット実行時は、%表示はされません。
・フォーマットを中止する場合は、右クリックして表示されたメニューで [フォーマットの中止] をクリックします。

17



フォーマットが正常に終了すると、ボリュームラベルとパーティションに加えて、「正常」と表示されます。

本製品を初めてフォーマットする場合

「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というメッセージが表示されることがあります。

その場合は [OK] をクリックし、作成したパーティションを次の手順でフォーマットしてください。

① 作成したパーティションを右クリックして [フォーマット] を選択します。

② 必要に応じてボリュームラベルやファイルシステムを設定し、[次へ] をクリックします。

※ [クイックフォーマットする] にチェックマーク (✓) を付けると、クイックフォーマットを行います。フォーマット時間が短縮されます。

③ 以降は画面のメッセージに従って操作します。

以上でパーティションのフォーマットは完了です。

WindowsNT4.0/3.51

WindowsNT4.0/3.51を使用しているときのフォーマット手順を説明します。

⚠注意 **フォーマットするときは、必ずOSのマニュアルを参照してください。**

1 **周辺機器（本製品を含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにし、WindowsNTを起動します。**

2 **[ｽﾀｰﾄ] ― [ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ] ― [管理ﾂｰﾙ(共通)] ― [ﾃﾞｨｽｸｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀ] を選択します。**

WindowsNT3.51の場合は、[管理ツール]グループの[ディスクアドミニストレータ]をダブルクリックしてください。

⚠注意 **表示されたドライブ構成を把握してから作業してください。誤って他のハードディスクをフォーマットしないように注意してください。**

本製品を新たに増設した場合

「ｼｽﾃﾑ構成を更新します。」というメッセージが表示されます。[OK]をクリックします。

3 **[ﾃﾞｨｽｸｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰﾀ] が起動します。本製品のドライブをクリックします。**

追加したドライブが表示されないときは、SCSIインターフェースボードのドライバは正しくインストールされているか、SCSIケーブルは正しく接続されているか確認してください。【SCSIインターフェースボードのマニュアル参照】

4 **メニューバーから [ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ] ― [作成] を選択します。**

5 **[ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝの作成] ダイアログボックスが表示されます。作成するパーティションのサイズを入力して [OK] をクリックします。**

WindowsNT3.51の場合は[プライマリパーティションの作成]ダイアログボックスが表示されます。

6 **メニューバーから [ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ] ― [今すぐ変更を反映] を選択します。**

WindowsNT3.51の場合は[パーティション] ― [直ちに変更を反映]を選択してください。

7 **「ﾃﾞｨｽｸ構成を変更しました。変更結果を保存しますか?」というメッセージが表示されたら [はい] をクリックします。**

8 **「ﾃﾞｨｽｸは正常に更新されました。」というメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。**

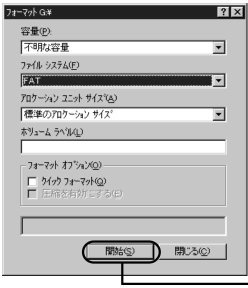
9 **フォーマットするパーティションを選択した後、メニューバーから [ﾂｰﾙ] ― [ﾌｫｰﾏｯﾄ] を選択します。**

次のページへ続く

10 各項目を設定し、[開始]（WindowsNT3.51の場合は[OK]）をクリックします。

WindowsNT4.0/3.51だけで本製品を使用するときは、[NTFS]を選択してください。
WindowsNT4.0/3.51以外のOSにも認識させたいときは、[FAT]を選択してください。

WindowsNT4.0



WindowsNT3.51



クリックします。

クリックします。

11 「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

WindowsNT3.51の場合は[フォーマット完了]ダイアログボックスが表示されます。

以上でWindowsNTでのフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、本製品がドライブとして認識されます。

- WindowsNT4.0の場合 .... 作成した領域が、[マイコンピュータ]に新しいドライブとして追加されています。
- WindowsNT3.51の場合 .... 作成した領域が、[ファイルマネージャ]に新しいドライブとして追加されています。

Windows3.1、MS-DOS

Windows3.1、MS-DOSに付属のフォーマッタFORMAT.EXEを使用したフォーマット手順の概略を説明します。

⚠注意 フォーマットする際は必ずOSのマニュアルを参照してください。

フォーマットの前に

誤って他のハードディスクをフォーマットしないように、次の方法で事前に現在のドライブ構成を把握しておいてください。

- Windows3.1 .... [ファイルマネージャ]で表示されているドライブアイコンで知ることができます。
- MS-DOS .... DIRコマンドでアクセス可能なドライブから知ることができます

※ 接続した本製品はフォーマット後に認識されます。フォーマット前は本製品は認識されていません。

フォーマット手順

⚠注意 **次の手順は、NEC製MS-DOS 6.2のFORMAT.EXEを使用した場合のものです。他のOSを使用しているときは、OSの定めるフォーマッタを使用してください。**

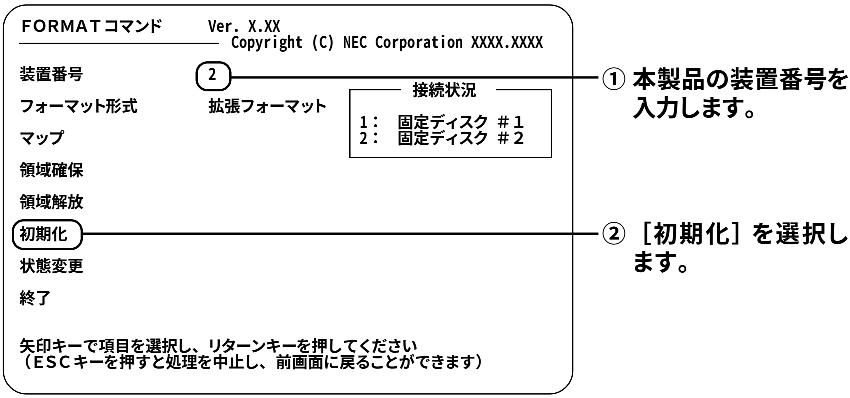
1 周辺機器（本製品を含む）→パソコンの順に電源スイッチをONにし、MS-DOSを起動します。

MS-DOSのプロンプトが表示されます。

2 FORMAT /H と入力し、<Enter>キーを押します。

FORMAT.EXEが起動します。

3



4 「装置全体を初期化します。よろしいですか」というメッセージが表示されます。［はい］を選択します。

初期化には数分から数十分かかります。初期化中はパソコンの電源スイッチをOFFにしないでください。

5 「装置の初期化を終了しました」というメッセージが表示されたら、<Enter>などの任意のキーを押します。

FORMATコマンドメニューに戻ります。

6 ［領域確保］を選択します。

次のページへ続く

7

```
FORMATコマンド        Ver. X.XX
                        Copyright (C) NEC Corporation XXXX.XXXX

装置番号                2
フォーマット形式        拡張フォーマット
確保容量                XXXX  MB
先頭シリンダ            0001
システム                転送する
ボリュームラベル
実行

確保する容量は何メガバイトですか HELPキーを押すとマップを表示します
確保可能な容量は１～XXX MBです
（ESCキーを押すと処理を中止し、前画面に戻ることができます）
確保容量＝
```

② ［実行］を選択します。必要に応じて［システム］や［ボリュームラベル］などの項目も設定します。

① ［確保容量］に確保したい領域のサイズをMB数で入力します。

⚠注意 **1つの領域として確保できる容量は2047MBまでです。**

8 「何かキーを押してください」というメッセージが表示されたら、<Enter>などの任意のキーを押します。

FORMATコマンドメニューに戻ります。

9 確保したい領域が複数あるときは、手順６～８を繰り返します。

領域の確保が終了したら、［終了］を選択します。

10 パソコンを再起動します。

以上で本製品のフォーマットは終了です。

正常にフォーマットされると、本製品がドライブとして認識されます。

- **Windows3.1の場合 ..... 作成した領域が、［ファイルマネージャ］に新しいドライブとして追加されています。**
- **MS-DOSの場合 .... DIRコマンドで作成した領域（ドライブ）の情報を確認できるようになります。**

メモ 本製品を再度フォーマットするときは、各OSのマニュアルを参照してください。

5 SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)機器として使う

本製品をSCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)機器として使用する場合の注意や手順を説明しています。

はじめに

● 本製品をSCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)機器として使用する場合は、SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)に対応したインターフェースボード(弊社製IFC-USLP、IFC-USCB2など)、およびドライバが必要です。
SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)に対応していないインターフェースでは、SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)転送が有効になりません。
また、SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)に対応したインターフェースでも、ドライバを更新しない限り、SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)転送が有効になりません。

⚠注意 **ドライバは、本製品に添付のものをご使用ください。**

● SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)機器は、既存のSCSI機器と混在できます。その場合の転送速度は、それぞれのSCSI機器に準じます。

● ご使用になるSCSIケーブルの種類や長さ、および接続できるSCSI機器の台数は、Ultra SCSIの場合と同じです。
詳しくは、「接続時の注意」【P10】を参照してください。

● パソコンの電源がONの状態で、PCカード型インターフェース(弊社製IFC-USCB2など)を接続する際は、あらかじめ本製品の電源をONにした後、5秒以上経ってからパソコンに接続してください。
本製品の電源をONにした直後にパソコンへ接続すると、SCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)転送が有効になりません。

ドライバの更新方法

ドライバの更新方法は、ご使用になるWindowsによって異なります。以下の手順を参考にして、正しくドライバを更新してください。

⚠注意 **以降の手順では、SCSIインターフェースに弊社製IFC-USLPを使用している場合の画面で説明しています。他のSCSIインターフェースをご使用の場合も、同様の手順でドライバを更新してください。**

WindowsXP をご使用の場合

□メモ
- 事前に本製品を取り付けておいてください。
- ドライバの更新の際は、「コンピュータの管理者」権限を持ったユーザーでログインしてください。ユーザーアカウントの権限を確認するには、[スタート]-[コントロールパネル]-[ユーザーアカウント]で確認できます。

1 周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにし、WindowsXPを起動ます。

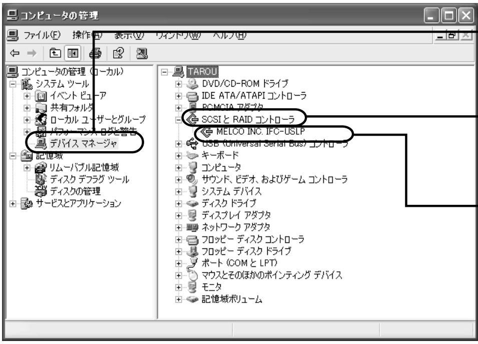
WindowsXPに複数のユーザーを登録している場合は、コンピュータの管理者権限があるユーザー名(Administrator等)でログオンします。

※ 登録したユーザーは、制限付きアカウントに設定しない限り、コンピュータの管理者権限を持っています。

2 [スタート]をクリックし、[マイ コンピュータ]をマウスの右ボタンでクリックします。

3 メニューが表示されたら[管理]をクリックします。

4



①[デバイスマネージャ]をクリックします。

②[SCSIとRAIDコントローラ]をダブルクリックします。

③[MELCO INC.IFC-USLP]をダブルクリックします。
プロパティ画面が表示されます。

※ここで表示される名称は、SCSIインターフェースによって異なります。

5

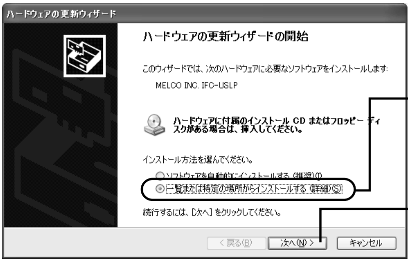


①[ドライバ]をクリックします。

②[ドライバの更新]をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザードの開始」画面が表示されます。

□メモ お使いのパソコンによっては、「ソフトウェア検索のため、Windows Updateに接続しますか?」と表示されることがあります。このようなときは、[いいえ、今回は接続しません]を選択し、[次へ]をクリックしてください。

6

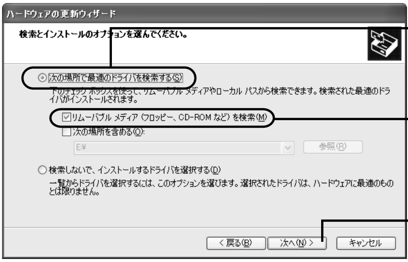


①本製品に付属のフロッピーディスクをセットします。

②[一覧または特定の場所からインストールする(推奨)]をクリックしてチェックマーク(・)を付けます。

③[次へ]をクリックします。

7

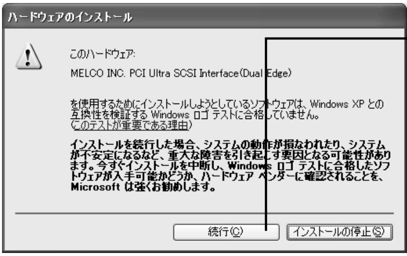


①[次の場所で最適のドライバを検索する]をクリックしてチェックマーク(・)を付けます。

②[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]をクリックしてチェックマーク(✓)を付けます。

③[次へ]をクリックします。
ドライバの更新が始まります。

8



[続行] をクリックします。

※「インストールを続行した場合、システムの動作が損なわれたり(以下略)」と表示されますが、弊社では動作確認をしております。[続行]をクリックして、更新を続けてください。

9 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」画面が表示されたら、[完了]をクリックします。

10 [閉じる]をクリックします。

11 「再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。

パソコンが再起動され、新しいドライバが有効になります。

以上でドライバの更新は完了です。

Windows2000 をご使用の場合

メモ
- 事前に本製品を取り付けておいてください。
- ドライバの更新の際は、「コンピュータの管理者」権限を持ったユーザーでログインしてください。

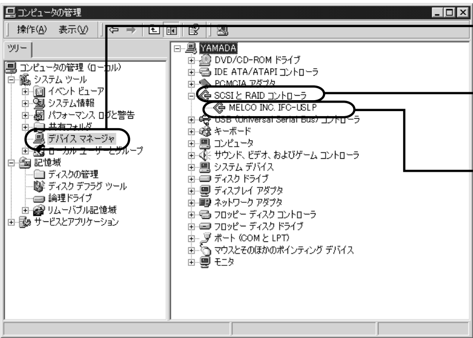
1 周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにし、Windows2000を起動ます。

Windows2000に複数のユーザーを登録している場合は、コンピュータの管理者権限があるユーザー名(Administrator等)でログオンします。

2 デスクトップの[マイコンピュータ]をマウスの右ボタンでクリックします。

3 メニューが表示されたら[管理]をクリックします。

4



①[デバイスマネージャ]をクリックします。

②[SCSIとRAIDコントローラ]をダブルクリックします。

③[MELCO INC.IFC-USLP]をダブルクリックします。
プロパティ画面が表示されます。

※ここで表示される名称は、SCSIインターフェースによって異なります。

5

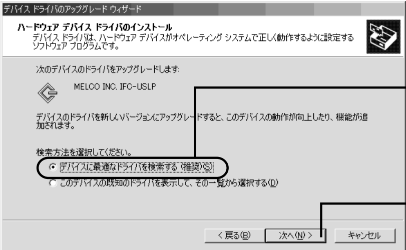


①[ドライバ]をクリックします。

②[ドライバの更新]をクリックします。

6 「デバイスドライバのアップグレードの開始」画面が表示されます。[次へ]をクリックします。

7

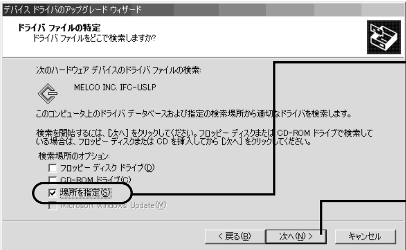


①本製品に付属のフロッピーディスクをセットします。

②[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]をクリックしてチェックマーク(・)を付けます。

③ [次へ] をクリックします。

8

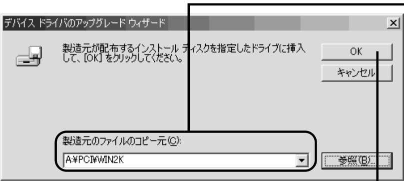


①[場所を指定]をクリックしてチェックマーク(✓)を付けます。

※[場所を指定]以外のチェックマークは外してください。

② [次へ] をクリックします。

9



①[製造元のファイルのコピー元]に「A:\PCI\WIN2K」(フロッピードライブがAドライブの場合)と入力します。

※弊社製IFC-USCB2などのPCカード型のSCSIインターフェースをご使用の方は、「A:\CARDBUS\WIN2K」(フロッピードライブがAドライブの場合)と入力します。

② [OK] をクリックします。

10



[次へ] をクリックします。

11



[はい] をクリックします。

※「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されますが、弊社では動作確認を行っています。そのまま[はい]をクリックして、ドライバの更新を続けてください。

12「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されたら、[完了]をクリックします。

13[閉じる]をクリックします。

14「再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。

パソコンが再起動され、新しいドライバが有効になります。

以上でドライバの更新は完了です。

WindowsMe/98SE/98/95をご使用の場合

メモ　事前に本製品を取り付けておいてください。

1　周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにします。

2　デスクトップの[マイコンピュータ]をマウスの右ボタンでクリックします。

3　メニューが表示されたら[プロパティ]をクリックします。

4



①[デバイスマネージャ]をクリックします。

②[SCSIコントローラ]をダブルクリックします。

③[MELCO INC.IFC-USLP]をダブルクリックします。

※ここで表示される名称は、SCSIインターフェースによって異なります。

5



①[ドライバ]をクリックします。

②[ドライバの更新]をクリックします。

6

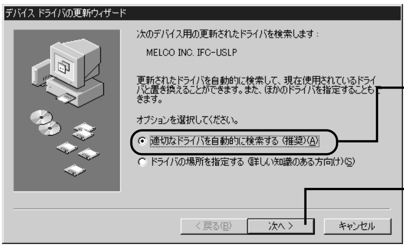


[次へ]をクリックします。

WindowsMeをご使用の場合

WindowsMeをご使用の場合は、以下の手順に従ってください。

1



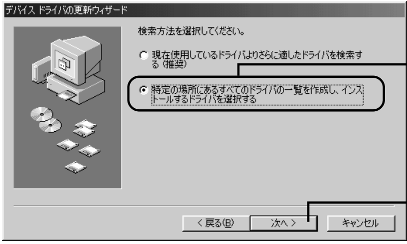
①本製品に付属のフロッピーディスクセットします。

②[適切なドライバを自動的に検索する(推奨)]をクリックしてチェックマーク(・)を付けます。

③[次へ]をクリックします。
ドライバの更新が始まります。

2 手順**13**へ進んでください。

7

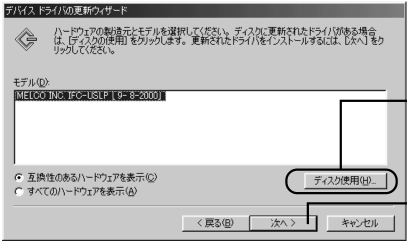


①本製品に付属のフロッピーディスクをセットします。

②[特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、 インストールするドライバを選択する]をクリックしてチェックマーク(・)を付けます。

③[次へ]をクリックします。

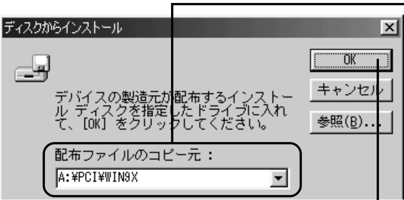
8



①[ディスク使用]をクリックします。

②[次へ]をクリックします。

9



①[配布ファイルのコピー元] に「A : \PCI\WIN9X」(フロッピードライブがAドライブの場合)と入力します。

※弊社製IFC-USCB2などのPCカード型のSCSIインターフェースをご使用の方は、「A:\CARDBUS\WIN9X」(フロッピードライブがAドライブの場合)と入力します。

②[OK]をクリックします。

10



①「MELCO INC. PCI Ultra SCSI Interface(Dual Edge)」が表示されていることを確認します。

※弊社製IFC-USCB2などのPCカード型のSCSIインターフェースをご使用の方は、「MELCO INC. CardBus Ultra SCSI Interface(Dual Edge)」が表示されていることを確認してください。

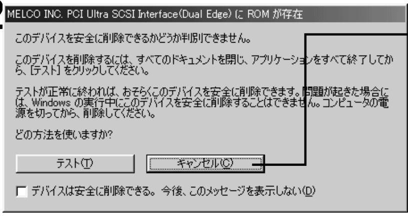
②[次へ]をクリックします。

11



[次へ]をクリックします。

12



「このデバイスを安全に削除できるかどうか判別できません」という画面が表示されたら、［キャンセル］をクリックします。

13



［完了］をクリックします。

14 [閉じる]をクリックします。

15 「再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。

パソコンが再起動され、新しいドライバが有効になります。

以上でドライバの更新は完了です。

WindowsNT4.0をご使用の場合

メモ
- 事前に本製品を取り付けておいてください。
- ドライバの更新の際は、「コンピュータの管理者」権限を持ったユーザーでログインしてください。

1 周辺機器(本製品を含む)→パソコンの順に電源スイッチをONにし、WindowsNT4.0を起動ます。

WindowsNT4.0に複数のユーザーを登録している場合は、コンピュータの管理者権限があるユーザー名(Administrator等)でログオンします。

2 [スタート]-[コントロールパネル]を選択します。

3 [SCSIアダプタ]アイコンをダブルクリックします。

4



①[MELCO INC.IFC-USLP]をクリックします。
※ここで表示される名称は、 SCSIインターフェースによって異なります。

② ［プロパティ］ をクリックします。

5



①[MELCO INC.IFC-USLP]をクリックします。
※ここで表示される名称は、 SCSIインターフェースによって異なります。
②[削除]をクリックします。

6



[追加]をクリックします。

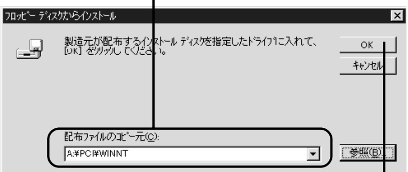
7



①本製品に付属のフロッピーディスクをセットします。

②[ディスク使用]をクリックします。

8



①[配布ファイルのコピー元] に「A : \PCI\WINNT」(フロッピードライブがAドライブの場合)と入力します。
※弊社製IFC-USCB2などのPCカード型のSCSIインターフェースをご使用の方は、「A:\CARDBUS\WIN9X」(フロッピードライブがAドライブの場合)と入力します。

②[OK]をクリックします。

9



①「MELCO INC. PCI Ultra SCSI Interface(Dual Edge)」が表示されていることを確認します。

※弊社製IFC-USCB2などのPCカード型のSCSIインターフェースをご使用の方は、「MELCO INC. CardBus Ultra SCSI Interface(Dual Edge)」が表示されていることを確認してください。

②[次へ]をクリックします。

10「今すぐコンピュータを再起動しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。

パソコンが再起動され、新しいドライバが有効になります。

以上でドライバの更新は完了です。

6 付録

バックアップ

バックアップの必要性

ハードディスクに蓄えられた重要なデータを保護するために、外部のメディアにデータの複製を作成することを「バックアップ」といいます。大容量ハードディスクには、日々大量のデータが格納されます。事故や人為的なミスなど不測の事態でデータを失うことは、業務上大きな損失となります。

⚠注意 **ハードディスクを使用する場合は、定期的にバックアップを作成してください。**

バックアップ用のメディア

バックアップ用のメディアには次のようなものがあります。

- フロッピーディスク
- 光磁気ディスク（MO）
- 増設ハードディスク
- ネットワーク（LAN）サーバ
- CD-R/RW
- DVD-RAM

大容量ハードディスクのバックアップ先としてフロッピーディスクを選んだ場合、大量のフロッピーディスクが必要になります。また時間もかかるため、効率的な手段とはいえません。可能な限りMOなど容量の大きいメディアにバックアップすることをおすすめします。

増設ハードディスクにバックアップする場合は、そのハードディスクをバックアップ専用にすることをおすすめします。

メモ Windows98/95付属のバックアップツールを使って、MOにデータをバックアップする場合、バックアップするファイル容量の合計がMOディスクの空き容量を超えないようにしてください（Windows98/95付属のバックアップツールの仕様です）。バックアップするときは必要なファイルだけを選択し、MOディスクの空き容量に納まるようにしてください。

バックアップデータの復元（リストア）

バックアップデータを元のハードディスクに復元することをリストアといいます。

リストアコマンド／ツールは、一般的にバックアップコマンド／ツールで指定されたもの以外は使用できません。マニュアルなどで確認して使用してください。

メンテナンス

Windows付属のツールを使用したハードディスクのメンテナンスについて説明します。

ハードディスクのエラーチェック（スキャンディスク）

Windowsには、ハードディスクのエラー（異常）をチェックするためのツールが付属しています。このツールはエラーを修復することもできます。ハードディスクを安全に使用するために、ハードディスクを定期的にチェックすることをおすすめします。

メモ
- エラーのチェック方法は、Windowsのヘルプやマニュアルを参照してください。
- Macintoshには、ハードディスクのエラーをチェックするためのツールは付属していません。ディスクのチェックには、市販のユーティリティを使用してください。

ハードディスクの最適化（デフラグ）

ハードディスクを長期間使用してファイルの書き込みや削除を繰り返していると、ファイルが分断されてディスクのあちらこちらに散らばってしまいます。これを断片化（フラグメンテーション）といいます。断片化されたファイルは、読み書きする際にディスクのあちらこちらにアクセスしなくてはいけないため、時間がかかっています。

このように散らばってしまったファイルをきれいに並べなおすことを、最適化（デフラグメンテーション）といいます。ハードディスクを最適化すると、ディスクアクセスの速度が改善されます。

Windowsには、断片化したハードディスクを最適化するためのツールが付属しています。ハードディスクを快適に使用するために、定期的にハードディスクを最適化することをおすすめします。

メモ
- 最適化の方法は、Windowsのヘルプやマニュアルを参照してください。
- Macintoshには、ハードディスクを最適化するためのツールは付属していません。ディスクの最適化には、市販のユーティリティを使用してください。

仕様

※ 最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ（buffalo.jp)を参照してください。

製品仕様

製品型番	DSC-40G	DSC-60G	DSC-80G	DSC-120G
ディスク容量(*1)	40GB	60GB	80GB	120GB
インターフェース仕様	Ultra SCSI（FAST-20）			
最大転送速度（理論値）	Ultra SCSI Dual Edge(SCSI40)：40MB/sec（*2） Ultra SCSI：20MB/sec　SCSI-2：10MB/sec（*3）			
セクタサイズ	512Bytes			
ディスク回転速度	5400rpm以上			
外部ターミネータへの電源供給	供給する			
SCSI-ID	0〜7の範囲で設定可能（出荷時設定：0） ※SCSI-ID7は、通常SCSIインターフェースボードが使用します。			
消費電力	17W以下			
温度範囲	5〜35℃			
湿度範囲	20〜80%（結露無きこと）			
外形寸法	42(W)×120(H)×250(D)mm			
電源	AC100V　50/60Hz			

⚠注意 ハードディスクの動作時、特に起動時やアクセス時、リトラクト時などに音がすることがありますが、問題ありません。

***1 記載のハードディスク容量は、1GB＝1000³byteで計算しています。OSやアプリケーションでは1GB＝1024³byteで計算されているため、表示される容量が異なります。**

***2 Ultra SCSI Dual Edge(SCSI40)転送を有効にするには、対応したインターフェース(弊社製IFC-USLP、IFC-USCB2など)と本製品に付属のドライバが必要です。**

***3 SCSI-2インターフェースに本製品を接続したときは、データ転送はSCSI-2で行われます。**

対応機種と対応OS

対応機種	本製品をSCSI機器として使用する場合	弊社製SCSIインターフェースを搭載した以下のパソコン ・DOS/V機（OADG仕様） ・NEC PC98-NXシリーズ ・NEC PC-9800シリーズ SCSIポートまたは、弊社製IFC-USLPを搭載した以下のパソコン ・Apple Power Macintoshシリーズ（*1） ・Apple PowerBookシリーズ(*2)
	本製品をSCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)機器として使用する場合	弊社製IFC-USLPまたはIFC-USCB2を搭載した以下のパソコン ・DOS/V機（OADG仕様） ・NEC PC98-NXシリーズ ・NEC PC-9821シリーズ(ノートパソコンを除く)
対応OS (*3)(*4)	本製品をSCSI機器として使用する場合	WindowsXP、Windows2000、WindowsNT4.0/3.51、 WindowsMe(Millennium Edition)、Windows98SE(Second Edition)、 Windows98、Windows95、Windows3.1、MS-DOS 6.2/V以降 Mac OS 7.6～9.2.1、Mac OS 10.0.4、10.1
	本製品をSCSI40(Ultra SCSI Dual Edge)機器として使用する場合	WindowsXP、Windows2000、 WindowsNT4.0(ServicePack4以降) WindowsMe(Millennium Edition)、 Windows98SE(Second Edition)、Windows98、 Windows95(Ver.4.00.950 Bおよび4.00.950 C)

***1 SCSIポートを搭載していない機種をお使いの場合は、弊社製IFC-USLPを別途ご購入ください。**

***2 SCSI機器が接続可能な機種に限ります。**

***3 Windows3.1、MS-DOSで使用できる最大容量は8.4GBです。
Windows95(4.00.950/4.00.950a)、Windows3.1、MS-DOSで作成できる最大パーティションサイズは、2.1GBです。**

***4 パソコンが対応していないOSでは使用できません。**

ハードディスクの破棄・譲渡・交換・修理時の注意

「削除」や「フォーマット」したハードディスク上のデータは、完全には消去されていません。お客様が、廃棄・譲渡・交換・修理等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。
万一、お客様の個人データが漏洩しトラブルが発生したとしましても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
以下のような市販のソフトウェアを用いてデータを完全に消去するか、専門業者に完全消去作業を依頼することをおすすめします。

DataGone(PowerQuest社製 販売株式会社ネットジャパン)内蔵ハードディスク用
詳しくは http://buffalo.melcoinc.co.jp/support_s/hddata.html をご参照ください。

※ ソフトウェアを削除することなくハードディスクやパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約違反になることがありますのでご注意ください。

DSCシリーズ ユーザーズマニュアル

2004年8月31日 第3版発行

発行　　株式会社バッファロー

お問い合わせ・修理窓口

お問い合わせ、修理については、以下の順にてお願い致します。

1 マニュアル、オンラインガイドにて設定内容・トラブルシューティングをご確認ください。

2 弊社ホームページにて最新Q&A情報、最新ドライバ・ファームウェアをご確認ください。

インターネット

製品情報　buffalo.jp
サポート情報　86886.jp（ハローバッファロー）

3 上記で改善しない場合は、次の窓口にお問い合わせください。
バッファローサポートセンター

お問合せの際は、以下「必要な情報」③〜⑦をあらかじめご確認ください。

電話でのお問い合わせ先　※電話番号のお掛け間違いがないようご注意ください。

【電話窓口】

電話番号（東　京）03-5781-7260　月〜金　9:30-19:00　土　9:30-18:00
電話番号（名古屋）052-619-1188　月〜金（祝日除く）9:30-17:00

手紙でのお問い合わせ先　住所　〒457-8520　名古屋市南区柴田本通4-15

4 修理は、以下へご依頼ください。　※修理に送られる際、弊社への事前連絡は不要です。
バッファロー修理センター

保証書について　修理送付前に本製品添付の保証書記載の保証契約約款をよくお読み下さい。
修理web予約　弊社ホームページより修理のweb予約、受付けた修理品の状況確認が可能です。
http://buffalo.jp/shuri/
送付先住所　〒456-0023　愛知県名古屋市熱田区六野二丁目１番３号　中京倉庫２７号棟
株式会社バッファロー修理センター　受付宛
電話番号　052-883-0570　※ご依頼の修理品に関するお問合せのみ承っております。
送付いただく物　本製品、本製品付属品、保証書（原本）、修理票(*)
*修理票は弊社ホームページよりダウンロード可能です。修理票添付が困難な場合は、以下「必要な情報」を記載した資料を製品と一緒にお送りください。

【注意事項】

※発送は宅配便等控えが残る方法にてお送りください。控えが残らない郵送は固くお断りします。
※修理依頼時の送料は、送り主様の負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故においては、弊社は責任を負いかねます。輸送会社に保証していただくなどの措置をお取りください。
※ハードディスク、フラッシュメモリ等の記憶装置内のデータは保証できませんので、修理に送付される前に予めお客様にてバックアップをとっていただきますようお願いします。
※AirStation、BroadStation、Link Stationは、修理の際に出荷時の状態に戻す為、設定内容（接続ユーザ名/パスワード/無線暗号キー（WEP）等）を消去します。
修理完了後、再度設定が必要となりますので、ご送付前に必ず設定内容を控えてください。
※修理期間は、製品の到着後10日程度（弊社営業日数）を予定しております。

5 ユーザ登録について
弊社ホームページ（https://online.buffalo.jp/）ユーザ登録が可能です。
※ユーザ登録された方には、弊社製品に関する情報をお届けします。

必要な情報

①返送先（氏名・住所・電話番号(内線)・FAX番号）
②平日昼間の連絡先
（氏名・住所・電話番号(内線)・FAX番号）
③バッファロー製品名
④バッファロー製品のシリアルナンバー
⑤具体的な症状／エラーメッセージ
⑥発生状況（初めから・ある日突然等）、
発生頻度（必ず、時々、時間が経つと等）
⑦ご使用環境(パソコン機種名、OS(Windows XP等)、周辺機器)
⑧製品以外の添付品(ACアダプタ、ケーブルなど)

※受付時間や電話番号などは、変更されることがあります。最新の内容は、弊社ホームページでご確認ください。
※This product supports only Japanese language.
Technical and customer support is limited to Japan only.
This product supports Japanese language Operating Systems ONLY.

PY00-27141-DM10-03　3-01　C10-005